日本語楽

長いあいだ書きためたものです

2025/4/8

国分芳宏

はじめに

最近は原語処理は統計的な手法を用いてするのが普通になってきています。しかしそのコーパス（源データ）を整理してアノンテーション（マーキング）をするためなどには構文解析が必要です。

統計的な手法を用いずに、文法と辞書による日本語解析を 50 年間続けてきままました。そのための手法を忘れないようにまとめたメモです。言語学の専門家でない者が書いたので厳密でないというおしかりを受けることと思います。しかし、工学的に役に立ちそうなことを、批判を恐れずに積極的に書きました。

実際にシステムを作る人のために、資料として付属語の一覧を巻末に添付しました。この他にもいろいろなファイルがあります。ご興味のある方は下記アドレスまでご連絡ください。

迷惑メールが来ますので申し訳ありませんが🌸を(@)に🐓を(.)ピリオドに置き換えてください。

Kokubu🌸gengokk🐓co🐓jp

「古きよき国分」で探せます。

ブログ　http://kokublog.asablo.jp/blog/

ホームページ http://www.asahi-net.or.jp/~wd2y-kkb/

音声については別稿としました。「パソコンがしゃべる」を参照してください。

説明の便宜上、一部で音声のアクセントの話をします。アクセントの音の高さの高いところを赤い文字で示します。

例　次の例の「は」と「し」の２文字は

端が	ハシガ	平板型	「シ」と「ガ」が高い音であることを示します。
橋が	ハシガ	尾高型	「シ」が高い音であることを示します。
箸が	ハシガ	頭高型	「ハ」が高い音であることを示します。

目次

はじめに
構文木
連用修飾格、連体修飾格による判定
構文上の強さによる判定
係り受けによる判定
並列構造の判定
副詞の種類に注目した判定
双主文
形容動詞による判定
自立語
格　連用修飾格、連体修飾格、独立格、結果格
膠着語
品詞の転成
体言
名詞
用言
動詞
形容詞
形容動詞
拡張形容動詞
副言
副詞
連体詞
接続詞
間投詞
指示詞・疑問詞
擬態語、擬音語
慣用句
付属語
助詞
助動詞
形式名詞
補助動詞
複合助動詞

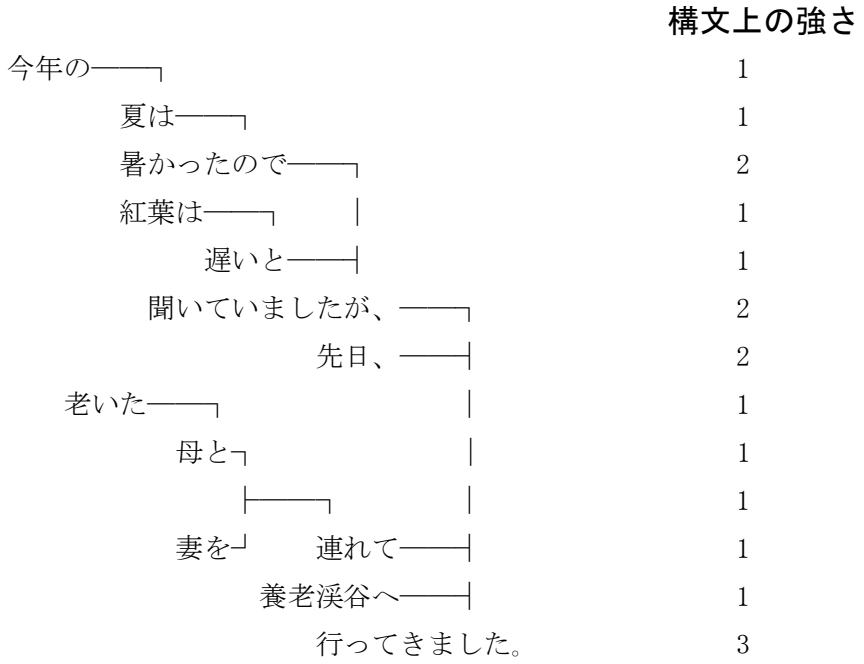
複合形容詞
複合助詞
表現
主語の推定
敬語表現
否定表現
疑問表現
ネガティブ・ポジティブ
時の表現
経過点表現
シソーラス
文の読み上げ
エピソード
あいまいな表現
同形の形式名詞と接続助詞
照応
地名・人名
顔文字
促音の後の濁音
連続した連体修飾格
和語動詞
連体形・終止形
自動詞・他動詞
オントロジー
こそあど
辞書
参考資料

構文木

次の２文からなる短い文章を例にして文の構造を考えてみましょう。

> 今年の夏は暑かったので紅葉は遅いと聞いていましたが、先日、老いた母と妻を連れて養老渓谷へ行ってきました。すでにそこは木々が紅葉していました。

前の文を、構成する文節をその修飾・被修飾関係で整理して図に示します。これを構文木といいます。このように修飾関係で文の構造を整理することを構文解析といいます。この修飾関係を係り受けといいます。



本文では前の部分が後ろの部分に係ります。最終的には、すべての部分が最後の「行って来ました」という文節に係ります。

連体修飾格か、連用修飾格かによる判定

まず、基本的に連体修飾格が体言で始まる文節に、連用修飾格は用言で始まる文節に係ります。前の文を係り受けに分解して文節同士の修飾関係を詳しく見てみましょう。

修飾側（係り）		被修飾側（受け）	構文上の強さ	
今年の	連体修飾格	夏は	体言	1
夏は	連用修飾格	暑かったので、	用言	1
暑かったので	連用修飾格	聞いていましたが	用言	2
紅葉は	連用修飾格	遅いと	用言	1
遅いと	連用修飾格	聞いていましたが	用言	1
聞いていましたが	連用修飾格	行ってきました	用言	2
先日	連用修飾格	行ってきました	用言	1
老いた	連体修飾格	母と	体言	1
母を	連用修飾格	連れて	用言	1
妻を	連用修飾格	連れて	用言	1
連れて	連用修飾格	行ってきました	用言	1
養老渓谷へ	連用修飾格	行ってきました	用言	1
行ってきました	独立格			3

構文上の強さによる判定

ここで、連用修飾格の「聞いていましたが、」が近くにある用言「老いた」や「連れて」に係らないで「行ってきました」に係っています。また「遅いと」という連用修飾格は「老いた」という用言にはかかっていません。文節には「(構文上の）強さ」と呼んでいる性質があります。複数の文節は強さのより強い文節でまとめられていて、自分より強い連用修飾格に係ります。自分より強い文節をまたいで、先の文節に係ることはありません。この強さは、各文節の最後にある付属語で決まります。格助詞、副助詞で終わる文節よりも、接続助詞で終わる文節の方が、さらに終助詞で終わる文節のほうが強くなります。

係り受けによる判定

次の文を例にして構文解析上での係先について考えてみましょう。

「ネットで行く公園を調べる。」

この文を文節に分解すると

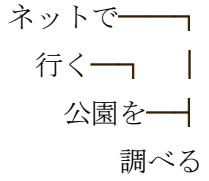
	始まりの用語	後ろへの影響
ネットで	体言で始まる	連用修飾書格
行く	用言で始まる	連体修飾書格
公園を	体言で始まる	連用修飾書格
調べる	用言で始まる	文末

ここで「ネットで」という文節は連用修飾格です。係り先として「行く」と「調べる」という２つの用言で始まる文が考えられます。

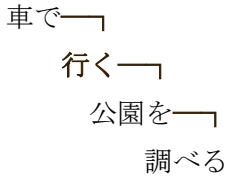
ネットで　行く

ネットで　調べる

よくある構文解析では距離的に近いので「ネットで」が直後の「行く」という文節に係ることになってしまいます。しかしこの係り受けは奇妙に感じます。ふさわしい組み合わせかどうかを調べるために、よくある組み合わせを集めた共起辞書を作りました。共起辞書には「ネットで」と「調べる」という組み合わせが登録してありますが、「ネットで」と「行く」は登録してありません。「ネットで」という文節は「調べる」という文節に係ることにします。図にすると。



ちなみに「ネットで」という文節を「車で」という文節に変えてみると、共起辞書には「車で　調べる」という組み合わせはないので「車で」直後の用言で始まる文節にかかることになり、構文構造は次のようになります。



この判定のために共起辞書を用意しました。

並列構造の判定

並列構造とは二つ以上の文節の対等な関係の構造をいいます。シソーラスにより意味的な近さを調べて並列構造かどうかを判定します。ここで「先生とビールを飲む」という文と

「お酒とビールを飲む」という文とを比較してみます。

「先生とビールを飲む」　　「お酒とビールを飲む」

先生と┐　　お酒と┐
ビールを┤　　ビールを-P┤
飲む　　飲む

意味的な距離を考慮すると 2 つの文の構造は異なった形になります。P は並列の意味です。

「お酒」と「ビール」とは意味的に近いのでこの「と」は並立助詞と考えられます。一方「先生」と「ビール」とは意味的に遠いので並立助詞とは考えられません。並立助詞にしてしまうと先生を飲んでしまうことになります。このような用語同士の意味的な距離もシソーラスで測ります。

副詞の種類に注目した判定

副詞の種類によりその係先に制限が有り構造が変わります。副詞の詳細については副詞を参照してください。

数量副詞

次の例では数量副詞「およそ」は「５本」という数量詞に係りますが「きっと」は係りません。数量詞は副詞としても働きます。

およそ┐　　きっと┐
５本┐　　５本┤
あります。　　あります。

呼応の副詞

呼応の副詞は文節の末尾にある文節の特定の意図を示す付属語の並びに係ります。
次の例では、呼応の副詞「さっぱり」は否定の意図である「ません」に係りますが、継続の意図である「ています」には係りません。

さっぱり┐　　×さっぱり┐
働きません。　　動いています。

また次の例では、呼応の副詞「是非」は願望の意図「たい」に係りますが推量の意図「でしょう」には係りません。

是非─┐　　×是非─┐
　　会いたい。　　働くでしょう。

程度副詞

継ぎの例で、程度副詞「とても」は「興味深い」という形容詞に係りますが、様態副詞「案の定」は係りません。

とても─┐　　案の定─┐
　興味深い─┐　　興味深い─┤
　　話でした。　　話でした。

例外的に形容詞的な意味を持つ動詞の慣用句に係ることがあります。次の例では「目にとまる」という動詞性の慣用句に「ひときわ」という程度副詞が係っています。

ひときわ目にとまった
非常に顧客が集まる

双主文

「そこは木々が紅葉していました。」という文に注目します。「紅葉していました」という文節に「そこは」と「木々が」という２つの主語があるように見える係り受けがあります。このような係り受けを「双主文」といいます。これは「木々が紅葉していました」という状態を示す係り受けに、さらに「そこは」という文節が係ったものです。

そこは─T─┐
　木々が　┤
　　紅葉していました。

この文の特徴は最後の「紅葉していました。」というような状態を表す文節しか許されないことです。例えば「そこは木々が紅葉だ。」という断定の文節にすると奇妙な文になってしまします。
「そこは」の文節の係り先を示すカギにＴの文字があるのは双主文の印です。

形容動詞による判定

拡張形容動詞は用言なので連体修飾格を受けません。

母国の┐
日本一の┤
山　　「母国の」は拡張形容動詞の「日本一」を飛び越して「山」に係ります。

母国の┐
日本の┐
山　　「母国の」は「日本」（名詞）に係ります。

文節間の係り受け表

1 連体	2 連用	3 独立	4 連両	5 様態	6 程度	7 呼応	8 数量	9 句点	係＼受け	
3			1						1	体言 机
	1		1	1	1	1	1		2	用言 食べる
1	1		1	1	1	1	1		3	断定 だ
									4	副詞 すっかり
	1		1	1	1	1			5	形容 青い・形容動詞
	1		1	1		1			6	否定 ない
1							1		7	数詞 ３日
									8	独立 突如
1	1	1	1	1	1	1	1	1	9	句点 。
次の	見て	お早よう	私と	早く	とても	少しも	おそよ	。		

注　１：係り受けになる　　空白：ならない

呼応の副詞については否定以外の説明が必要ですが、省略しました。

自立語

自立語は文節の先頭になります。大きく、体言（名詞、連体詞）と、用言（形容動詞、形容詞、形容詞、動詞）副言（副詞、接続詞、間投詞）に分類できます。品詞は語頭では決まらず、付属語によって変わります。

動詞、助動詞、形容詞、形容動詞はその使い方に応じて活用があります。活用の仕方はそれぞれの品詞のところで説明します。

格

文節が文中でどんな文節に係るかについてした分類を格といいます。

体言に係る文節を**連体修飾格**といいます。

用言に係る文節を**連用修飾格**といいます。

どこにも係らない文節を**独立格**といいます。

動作の結果として係る文節を結果格といいます。

膠着語

日本語は膠着語といって単語の後ろに付属語がつきます。その付いた付属語によって品詞が変わることがあります。体言から用言、用言から体言に変わったときにはその用語に連体修飾格が係るか、連用修飾格が係るかも変わります。

「が」が付いた結果体言になり、それに連体修飾格が係った例

国語の勉強が

彼の動きが

「する」「ます」が付いた結果用言になり、それに連用修飾格が係った例

良く勉強する

彼は動きます

付属語が付いた結果、品詞が変わるものはいくつかあります。品詞の転成を参照してください。

慣用句がそのまま連用修飾格になるものや連体修飾格になるものもあります。

例　誰言うともなく　　（連用修飾格）

　　持って来いの　　（連体修飾格）

品詞の転成

日本語は膠着語で、後ろに付属語（辞）が付きます。付属語が付いた結果品詞が変わるものがあります。付属語辞は付加される補助的な成分と思われがちですが、できあがった用語全体を文法的に、音声的に支配しています。

構文木のところで述べたように、連体修飾格が体言で始まる文節に、連用修飾格は用言で始まる文節に係ります。当然のこととして、語末を見ないと連体修飾格を受けるか連用修飾格を受けるかが決定できません。

一段動詞	生きる	用言	←→	生きが	体言	
動詞の連用形	動きます	用言	←→	動きが	体言	
漢語サ変	勉強する	用言	←→	勉強が	体言	
形容動詞	元気です	用言	←→	元気が	体言	
動詞の終止形	～がある	用言	←→	ある人	体言	連体詞
形容詞	強い	用言	←→	強＋さ	体言	
形容動詞	元気で	用言	←→	元気＋さ	体言	

拡張形容動詞にはこの転成ありません。

造語要素

通常接尾辞がついた形で使用されます。接尾辞によって出来上がる用語の品詞が異なります。

	例	国際		
造語要素＋性		国際＋性	名詞	
造語要素＋化		国際＋化	用言	サ変動詞
造語要素＋的		国際＋的	用言	形容動詞
不＋造語要素		不＋満足	用言	
旧＋造語要素		旧＋庁舎	体言	

付属語と品詞の関係

一つの用語が付属する語によって、連用修飾格にも、連体修飾格にもなります。

元の用語	連用修飾格	連体修飾格	独立格
単独の用語の品詞	副詞	連体詞	接続詞
名詞 　時の名詞（副詞） 　数量詞 　副助詞による 　接尾辞による 　形式名詞による	学校で 今朝　　（食べた） 5 人　　（来た） 学校より（大きい） 制度上　（禁止しする） 制度のため	学校の 学校に対する 制度的 制度による	学校だよ
動詞	連用形　　動いて	連体形　　動く	終止形　動く。 命令形　働け
形容詞	連用形　　青く	連体形　　青い	終止形　青い
形容動詞	連用形　　元気に 　　元気で 連用形　　堂々と	連体形　　元気な 連体形　　堂々たる	終止形　元気だ。
接続詞	その上	といった	すると

結果格

例えば「歩いた足跡」というときの係り受けは「歩いた」という係文節は「足跡」という受けの文節と係り受け関係を認められません。このような関係は歩いた結果出来た足跡と言う意味で「結果格」などと呼ばれています。

体言

名詞のことです。助詞を伴って格を構成します。また断定の助動詞などを伴って名詞文を構成します。

意味

意味により次の 12 種類に分類します。一つの名詞が多義語として複数の意味を持ちえます。特に抽象とその他で２つの意味を持つものがあります。

意味	例
抽象	文化、色、音
人名	先生、太郎
機関名	学校、会社
場所	道路、東京
時	朝、８時
数量	５本、少し、片方
数詞	５２３、十九、いく、何
物	机、コンピューター
形式名詞	もの、こと

注　形式名詞は付属語のところで扱います。

抽象

抽象概念を表す名詞です。用言から派生した結果できた名詞もこれにあたります。

人名

動作の主体になります。

機関名

学校、会社などの動作の主体になると同時に場所の属性も持ちます。

場所

場所を表します。

時

時の意味を表す名詞です。

例　今日、夕方、去年

助詞を伴わずに単独で連用修飾格（様態副詞）としても働きます。

昨日は飲んだ。

昨日飲んだ。　　（助詞を伴わない例）

過去、現在、未来の区別があります。テンスとの関係で共起が許される組み合わせと許されない組み合わせとがあります。

例	過去	現在	未来
	昨日見てきた	今日見ている	明日みてくる
	昨日は寒かった	今日は寒い	明日は寒いだろう
	去年は学生だった	今学生だ	来年は学生だ

数量詞

数量を表す名詞です。

数量詞とは数詞と助数詞の組み合わさったものです。

一本、８冊、５個

５個買った、

他に１語で数量詞として働くものがあります。

片方、少し

助詞を伴わずに単独で連用修飾格（程度副詞）としても働きます。

また数量詞は助詞の「ずつ」が付きます。

５本多い

５本ずつ

数詞

数を表す用語で、同じ値を書くのにいろいろな記述法があります。

２０３

二百三

二〇三

アラビア数字で書いたときに２つの読み方があります。

２０３　　ニヒャクサン

　　ニーレーサン

数字以外に数詞と同じように助数詞を伴って用いられ、数詞といったほうが良い名詞があります。

複数　　（複数本）

何　　（何台）

助数詞

単位といわれているもので数詞の後ろについて数量詞をつくります。名詞のところで述べた意味をもっています。

例　５本

十、百、千、万などの数字の桁や小数点なども助数詞です。

この桁を現す助数詞には３つのレベルがあります。

十、百、千　　のレベル：その桁の数値が１の時は省略します。

万、億、兆、京　のレベル：その桁の数値が１でも省略できません。

小数点も助数詞です。小数点以上と小数点以下では読み方が変わります。

助数詞は発音上複雑な変化をします。

読み方についてはここでの説明は省きます。別冊の「パソコンがしゃべる」を参照してください。

物

具体的な物を表します。

例　　机、コンピューター

英字の読み方

アルファベット文字列の読み方には3種類があります。それぞれ通例で決まっている読み方に従って読み上げます。

英語読み	Book	ブック	
イニシャリズム	FBI	エフビーアイ	（スペルをそのまま読む）
	UNHCR	ユーエヌエッチシーアール	
アクロニム	NATO	ナトー	（ローマ字読み）
	UNICEF	ユニセフ	

固有名詞

人名、地名など個々のものを指す固有名詞があります。どこまでが一般名詞で、どこからが固有名詞かという問題もあります。新しい固有名詞がどんどん生産されています。そのため辞書にすべての固有名詞を登録するのは不可能です。日本語処理システムでは、どうしても未知語になってしまい精度を上げられない最大の原因になっています。辞書の保守をしていて最後まで手が抜けず、手こずる問題です。

企業名などで、元の意味と変わってしまうことがあります。

例　「電気」は物ですが「日本電気」は機関の意味になります。

「ディーゼル」は物ですが「日産ディーゼル」も機関です。

発音や表記が普通の用語と表記法がずれているものがあります。これはおそらく会社名を決めたころ、仮名小文字の活字がなかったためでしょう。

キヤノン、富士フイルム

御茶ノ水（地下鉄）、お茶の水（ＪＲ）

さらに普通名詞と紛らわしい読み方の用語もあります。

ブルドックソース　（製品にはＢｕｌｌ・Ｄｏｇと書いてあります。）

ビックカメラ

英雄（ひでお）　　（野茂英雄）

勝利（かつとし）

君子（きみこ）

同じ表記にいくつかの読みがあります。なおかつ決められた読み方しか許されません。そのため正確に読ませるためには人手によるチェックが必要になります。

卓　たかし、たく、すぐる

中谷　なかたに　なかや　なかのや

日本電気（にっぽん）　日本芸術院（にほん）

本町（ほんちょう、ほんまち、もとまち）どの県かで読み方が異なります。

調べてから読ませる必要があります。

一般名詞と同音の人名は一般名詞と区別するために、読みが同じでもアクセントが異なるものがあります。

例	**普通名詞**	**固有名詞**
岸	キシ	キシ
谷	タニ	タニ
島	シマ	シマ

旧字体が使われていて、その字体でないと許されないという問題が発生することがあります。固有名詞にしか用いない異体字を含むものがあります。

逆にこのような異体字があったら固有名詞だと判断できます。

例　岡、埼

「ゐゑヰエヲヂヅ」　も現代文では固有名詞でしか使いません。

地名・人名

人名と同じ表記の地名が多くあります。日本人は農耕民族のためでしょう。

漢語の複合名詞

多くの場合漢語を組み合わせて複合名詞を作ります。しかし「見積もり書」のように和語由来の要素の組み合わせもあります。

最後の語が全体の意味になり、前に来る用語は修飾語です。

例えば「言語工学」は「工学」という用語を「言語」という用語が修飾しています。「言語工学」は「工学」の狭義語です。

また「工学言語」という用語があったとすると、こんどは「言語」という用語を「工学」という用語が修飾していることになります。

単独の場合とアクセントも異なります。

言語　　ゲンゴ
工学　　コーガク
言語工学　ゲンゴコーガク

後ろの用語の先頭の音が濁音化することがあります。これを連濁といいます。か行音のときはガ行鼻濁音になります。ただし後ろの用語の先頭が元々ガ行音のときは鼻濁音になりません。

株式会社　　ガ行鼻濁音
日本銀行　　ガ行口濁音

和語の複合名詞

次に例に上げるのは形の上では連体修飾語を伴った名詞ですが、係り受けとして扱うよりも一語として考えた方が扱いやすい名詞です。例えば「お袋の味」という複合語は「郷土食」とほぼ同じ意味で、「お袋」という用語の直接的な意味は薄れています。

例　お袋の味、木の葉、トカゲの尻尾、長蛇の列、親の七光り、親の仇、欲の皮、権力の座、社長の椅子、蛍雪の功、先人の知恵、長年の夢、先見の明、言葉の暴力、飲み物、調べ事、焼き鳥、漬物、秘伝のタレ、喫緊の課題、手のひら、手の内、火の車、天の川、気の病、三途の川、氷山の一角、思いの丈

接尾辞

名詞、形容動詞の後ろに付いて複合語の後端部分を構成します。後ろに付加する文字列なので、名詞を補助するものと思われがちですが、複合語全体の品詞、意味だけでなくアクセントまでも決定する重要な部分です。

例

接尾辞に「書」を持つ用語は全て書き物でアクセントは平板型
　請求書、案内書、説明書、納品書、手引書　　（例外：秘書）
接尾辞に「員」を持つ用語は全て担当者でアクセントは中高型
　担当員、清掃員、案内員、説明員、添乗員　　（例外：幅員）

「人」と書く接尾辞は３種類あります。それぞれ詠み方アクセントに特徴があります。

1　「にん」と読む接尾辞　例　推薦人
　「スイセンニン」その動作をしている人「ニン」と読む
2　「じん」と読む接尾辞　例　社会人
　「シャカイジン」その人の社会的地位。「ジ」が低い
3　「じん」と読む接尾辞　例　野蛮人
　「ヤバンジン」その人の持っている性質。「ジ」が高い

３番目のものは他に私の調べたかぎりでは次の３つしかありませんでした。

日本人　「ニホンジン」
朝鮮人　「チョーセンジン」

台湾人　「タイワンジン」
日本または旧植民地です。やや軽蔑的な意味があるのかも知れません。
もし３番目のものもので他の用語をご存じの方がおられましたら教えてください。

同じ漢字が独立して用いられるときと接尾辞として用いられるときで読み方が変わるものがあります。

例	読み方		
船が	ふね、	独立しているとき	
屋形船	ぶね	接尾辞　前が和語の時	連濁した
輸送船	せん	接尾辞　前が漢語の時	

造語要素

単独では用いられず複合語を作るときににしか用いられない造語要素と言われているものもあります。
用途に応じて複合語の要素として用いるか接尾辞を付加して用います。

造語要素	名詞	サ変動詞	形容動詞
国際	国際性	国際化	国際的
抽象	抽象性	抽象化	抽象的
前衛	前衛性	前衛化	前衛的

さらに接頭辞が付くことがあります。
前近代化、超自然的

語末の長音

「コンピューター」などのカタカナ語の最後の長音は普通の書物では付与します。
ＪＩＳの用語では、長音を付けないことになっています。このため工学分野では省略されることがあります。通常の会話や表記では長音がついているので、長音は付けるようにＪＩＳを改訂するべきです。

用言

活用のある自立語を用言と言います。

連用名詞を一つの活用形として認めることにしました。形容詞、形容動詞では語幹の後ろに「み」を伴って名詞を構成します。そしてこの出来上がった名詞には連体修飾格がかかります。

用言には叙述用法と、体言を修飾する限定用法とがあります。

	叙述用法		限定用法		
例	リンゴを	食べる	食べた	リンゴ	動詞
	リンゴが	赤い	赤い	リンゴ	形容詞
	リンゴが	美味だ	美味な	リンゴ	形容動詞

語幹と活用語尾に分けられます。

活用により変化しない部分を語幹、変化する部分を活用語尾と言います。

語幹	活用語尾	
書	く	五段動詞
食べ	る	一段動詞
赤	い	形容詞
美味	だ	形容動詞

動詞

活用のある自立語です。

動詞の活用

一段動詞を学校文法では文語文法との関係で上一段（10 種類）、下一段（12 種類）に分けています。我々の工学的な辞書では一段動詞の活用語尾の先頭の 1 字を語幹に繰り入れることによって 1 種類にしています。

学校文法	**本書**
悔／いる	悔い／る
生／きる	生き／る
／見る	見／る
語幹がないことがあります。	活用語尾がないことがあります。

動詞の活用形

本書では以下の 17 種類の活用の仕方を許しています。

五段動詞（子音動詞とも言います）

カ行五段　　書く
カ行五段＊　　行く（1 例だけ）
ガ行五段　　泳ぐ
サ行五段　　押す　使役受身がありません。
タ行五段　　立つ
ナ行五段　　死ぬ（1 例だけ）
バ行五段　　遊ぶ
マ行五段　　飲む
ラ行五段　　走る
ラ行五段＊　　下さる
ワ行五段　　買う
ワ行五段＊　　問う

一段動詞（母音動詞とも言います）

一段動詞　　生きる

カ変動詞

カ変　　来る　（1 例だけ）

サ変動詞

サ変動詞には 1 文字からなる和語サ変と、2 文字からなる漢語サ変とがあります。

和詞サ変　　察する　使役受身がありません。
信ずる　語幹の最後の音が撥音と「い」「う」のとき活用語尾が濁音になります。
命ずる
生ずる
漢語サ変　　勉強する　（漢語動詞）

漢語サ変は名詞としても働き、直後に格助詞がつながることがあります。格助詞がつながったときは体言になり、連体修飾格を受けます。

私が　組織する　　用言：連用修飾格を受ける
私の　組織が　　体言：連体修飾格を受ける

活用形の種類の例外

活用形の説明で（＊）印のものは連用形、音便形ないしは音便形の活用形が特殊です。教科書では説明されていません。比較のために下段にカッコに入れて通常の活用形のものを示

しました。

カ行五段	終止形	連用形	音便形	
	行く	行きます	行った	音便形の活用語尾が（っ）になる
	（書く	書きます	書いた）	普通のカ行五段

ラ行五段	終止形	連用形	音便形	
	下さる	下さいます	下さった	音便形の活用語尾が（っ）になる
	（走る	走ります	走った）	普通のラ行五段

ワ行五段	終止形	連用形	音便形	
	問う	問います	問うた	音便形の活用語尾が（う）になる
	（買う	買います	買った）	普通のワ行五段

通常の活用形の他に連体形だけに古い形も使われている動詞があります。

ゆう（言う）
ゆく（行く）
うる（得る）

注意　一段動詞とラ行五段動詞は両方とも終止形が「る」で終わっています。
未然形を調べて区別します。

	終止形	**未然形**
一段動詞	着る	着ない
ラ行五段動詞	切る	切らない

ぞんざいな言い方で
漢語の動詞はサ変動詞になりますが、外来語でラ行五段活用をする動詞があります。

トラブル	トラブる	トラブった
ダブル	ダブる	ダブった
牛耳る	牛耳った	

2020 年 03 月 03 日のＮＨＫのテレビ新型コロナウイルスの話で「ミングる」(mingle)という動詞が紹介されました。片仮名語でなかの最後の字「る」だけ平仮名で書いてありました。パーティーなどで人と交わるという意味だそうです。

係り受けが短縮されて、ラ行五段になることがあります。

日和見主義になる	ひよる
グーグルで調べる	ググる

動詞の活用形の種類

動詞の活用の変化を説明します。１例ずつを使って各活用を説明します。

活用形	五段	一段	カ変	和語サ変	漢語サ変
未然形１	書かない	調べない	来ない	察しない	発表しない
未然形２	書かず	調べず	来ず	察せず	発表せず
意志推量 注１	書こう	調べよう	来よう	察しよう	発表しよう
連用形	書き	調べ	来	察し	発表し
音便形注２	書いて	調べて	来て	察して	発表して
終止連体形 注３	書く	調べる	来る	察する	発表する
仮定形	書けば	調べれば	来れば	察すれば	発表すれば
命令形１	書け	調べろ	来い	察しろ	発表しろ
命令形２		調べよ		察せよ	発表せよ
受身形	書かれる	調べられる	来られる	察せられる	発表される
可能形	書ける	調べられる	来られる	察せられる	発表できる
使役形	書かせる	調べさせる	来させる	注４	発表される
使役受身	書かされる	調べさせられる	来させられる	注４	発表させられる
謙譲表現	お書きする	お調べする	参る　注５	お察しする	発表いたす
尊敬表現	お書きになる	お調べになる	いらっしゃる 注４	お察しになる	発表なさいます
尊敬表現連体	お書きの	お調べの	いらっしゃる 注４	お察しの	ご発表の

令形、受身形、可能形、使役形、謙譲表現、尊敬表現は意志動詞のときだけあります。

注１　動詞が意志動詞のときは意志で、無意志動詞のときは推量です。

注２　音便形には「て」の他に「た」「たろ」「たり」「たら」がつきます。

注３　直後に自立語が来たときは連体形で連体修飾格を作り、限定用法です。
　　それ以外は句点が来たときは終止形で、叙述用法です。

注４　この活用形はサ行５段および和語サ変には欠落しています。

注５　別の動詞を使います。

和語動詞

漢語サ変動詞以外の、五段動詞、一段動詞、カ変動詞、和語サ変をいいます。実際の語源は「牛耳る：漢語」ラ行５段、「トラブる：英語」ラ行５段などのこともありますが説明の都合上活用形に注目して和語動詞を定義します。和語サ変動詞は漢語のサ変動詞とは活用が少し違います。動詞の活用形の種類を参照してください。

連体形・終止形

動詞と形容詞の活用形で終止形とは別に連体形が定義してありますが、純粋の連体形は形容動詞の「な」しかありません。そのためだけに終止形と連体形とが分けてあります。

動詞の持つ側面

動詞によってある種の表現が出来るか出来ないかという側面を持っています。この側面を持つか持たないかで分類します。

テンス

時制とも言います。現在から見て出来事が、過去、現在、未来のどれに当たるかを示します。

調べた	過去
調べている	現在
調べる	非過去（現在または未来）
調べよう	未来

アスペクト

動詞に「ている」などを伴って完了・継続・反復などの動詞が表す行為の様相を表します。

継続動詞

「ている」が付いたとき動作が進行中であることを示します。

ある時間継続する動作を示す動詞です。

例　歩く、食べる、読む、泳ぐ、調べる、歩かせる

動作が継続する動詞でも受身形の場合は瞬間動詞になりす。

例　食べられる、読まれる、

上記以外の動詞も「～続ける」などと組み合わせて複合動詞を作ると継続動詞になります。

例　書き続ける

続ける、続く、進める、回る、漁る、過ごす、捲る、通す、慣れる

瞬間動詞

「ている」が付いたとき、瞬間的に動作が終了して状態が変わることを示す動詞です。

例　始まる、終わる、てくる、てしまう、死ぬ、結婚する

上記以外の動詞も「～始める」なそと組み合わせて複合動詞を作ると瞬間動詞になりま

す。

例　読み始める

始める、終わる、終える、直す

状態動詞

状態を示す動詞です。

例　いる、おる、ある

＊　ている、てある、ていく、ておる

などの補助動詞が後ろに付きません。

＊ある、おる　には未然形がありません。

第４種動詞

状態動詞の一種で、必ず「ている」がついた形で用いられます。

例　そびえる、すぐれる、面する、ずばぬける、ありふれる、にやける、ばかげる

「ている」が付いた形で一つの動詞として辞書に登録しておけます。

このほかに副詞に「ている」が付いて時間に関するいくつかの性質を表します。

何回か読んでいる	達成済み
毎朝、読んでいる	習慣
広く読まれている	単なる状態

その他のアスペクトの形式

てある	結果の状態
つつある	事態の進展
てくる	事態の開始。元の場所にもどる
ていく	事態の進展。立ち去る
てしまう	達成を強調する

アスペクトは動詞に固定しているものではなく、係り受けの組み合わせによってはどちらにも使われる動詞があります。

問題点を書き出した	意味を結合させる場合。継続動詞になります。 （「読み込む」の反対の意味）
急に書き出した	アスペクトを変える場合。瞬間動詞になります。 （書き終わるの反対の意味）

自動詞・他動詞

英語などの外来語での動詞の分類法を日本語文法に導入した概念です。日本語の動詞の類にはあまり適当ではないと考え、本書では採用しません。代わりに次に述べる意志動詞・無意志動詞という分類法を採用します。

他動詞は動作の対象に「を格」をとるという説明を見受けますが「野原を行く」のように移動性の動詞は自動詞でも「を格」を取ります。

意志動詞・無意志動詞

自動詞・他動詞という分類法の代わりに**意志動詞・無意志動詞**という分類法を提案します。ネットには他動詞と自動詞とを対応させた表がいくつかあります。「行く」のような移動性の動詞を除いて他動詞は意志動詞に、自動詞は無意志動詞にメンバー的にほぼ一致しています。

他動詞　意志動詞	自動詞　無意志動詞
上げる	上がる
伸ばす	伸びる

しかし意志動詞・無意志動詞の性質は動詞に固定的なものではありません。どんな使い方をするかによって変わります。

話者の意図的に行われる動作でないときは無意志動詞になります。

意志動詞になる例	無意志動詞になる例
私が食べる	彼が食べる
道を曲がる	棒が曲がる
大空を舞う	ほこりが舞う

意志動詞

行為者の意志によりその行為をできる動詞です。

例 する、歩く、読む、食べる、流す、砕く、裂く、閉める、始める

意志動詞の特徴を述べます。

＊命令形、勧誘表現などの意志表現があります。

＊受身・可能・尊敬・自発の形があります。

＊使役動詞は意志動詞です。

＊意志推量の助動詞「よう」のついた形は意思になります。

例 食べよう

無意志動詞

行為者の意志がその動作に及ばないものです。事象が主語になります。使用法にいくつかの制限があります。

例　なる、生まれる、砕ける、裂ける、閉まる、始まる、曲がる、変わる、
効く、分かる、出来る、聞こえる、見える

無意志動詞の特徴を述べます。

＊命令形、禁止、依頼、勧誘などの意志表現がありません。

＊受身・可能・尊敬・自発の形がありません。

＊意志推量の助動詞「よう」のついた形が推量になります。

例　生まれよう

＊「お（和語動詞連用形）する」のような謙譲表現が許されません。

例　×　お生まれする

和語動詞とは、五段動詞、一段動詞、語幹が一文字からなるサ変動詞をいいます。

例　読む（五段動詞）、見る（一段動詞）、察する（語幹が一文字のサ変動詞）

＊希望の助動詞「たい」がつきません。

＊補助動詞は意志動詞にしか付きません。ただし、「直前」の列に「無意志動詞」と書いてある補助動詞は無意志動詞にもつきます。

意思動詞・無意志動詞の機能の対比を表にまとめました

	意志動詞	無意志動詞	助動詞
否定疑問	勧誘	否定疑問	
意志推量の助動詞「よう」	意志	推量	
命令形	○	×	
禁止、依頼、勧誘	○	×	
意志の助動詞	○	×	（さ）せる
無意志の助動詞	○	×	（ら）れる
希望の助動詞	たい	たがる	
和語動詞の謙譲表現	○	×	

直後に来る動詞が意志動詞か、無意志動詞かが推定できる副詞があります。

意志動詞に係る副詞

例　自ら、意図的に、ひたすら、引き続き、現在でも、心から、決して、それにしても、必ず、だんぜん、やっぱり、でも

意志の助動詞・無意志の助動詞

「(さ）せる」を「意志の助動詞」とします。

「(ら）れる」を「無意志の助動詞」とします。

これらの助動詞は原則として意志動詞にだけ付き、無意志動詞には付きません。

		意志の助動詞	無意志の助動詞
広げる	意志動詞	○広げさせる	○広げられる
広がる	無意志動詞	×広がさせる	×広がれる

五段動詞の可能形(無意志形)にも付きません。

書く	可能形	×書けさせる	×書けられる

助動詞「(ら）れる」学校文法では受身、可能、尊敬、自発と分けてありますが、これは英語などの外来語での分類法に対応させたもので、**意志の助動詞・無意志の助動詞**という分類法にすればすっきりします。

使役受け身

意志の助動詞が付いた後ろには無意志の助動詞が付きます。これは「使役受け身」と呼ばれています。

書かせられる	五段動詞
食べさせられる	一段動詞

しかし下記のように主観的な無意志動詞が意志動詞の助動詞・無意志動詞の助動詞をとる例外もあります。

困る	困らせる
忘れる	忘れられない
悩む	悩ませる

「する」と「なる」の対比

基本的に

する	意志動詞です。
なる	無意志動詞です。

名詞、形容動詞、形容詞も「する」と「なる」を付けて意志動詞・無意志動詞とする用法があります。

	名詞	形容動詞	形容詞
意志動詞用法	運動をする	元気にする	青くする
無意志動詞用法	運動になる	元気になる	青くなる

和語動詞の敬語表現での用法では「する」は謙譲表現になり、「なる」は尊敬表現になります。

お読みする	謙譲表現、意志動詞
お読みになる	尊敬表現、無意志動詞

意志動詞・無意志動詞が否定を伴った疑問文

否定を伴った疑問文の意味が意志動詞・無意志動詞とで異なります。意志動詞のときは勧誘に、無意志動詞のときは否定疑問になります。

その結果「はい」と答えたときの意味も変わります。

			答え	意味
飲まないか	意志動詞	勧誘	はい	飲む
飲めないか	無意志動詞	否定疑問	はい	飲めない

このような弁別は自動詞・他動詞の分類ではできません。この意味でも意志動詞・無意志動詞の分類法は有効です。

移動性動詞

移動を伴う動作の動詞です。

例　行く、来る、帰る、出かける、伺う、見える（来るの意味）

引き返す、立つ（出発の意味）、戻る、寄る、立ち寄る、寄こす、
やる、回る、走る、急ぐ、降りる、登る、入る、現われる、飛ぶ
＊目的の「に」を受けます。
例　頼みに行く。（に）は目的のに
＊意志動詞ですが「（場所）を格」を受けます。
例　道を行く。
＊（場所）へ格を受けます。

伝達・思考動詞

伝達や思考などの意味の動詞です。
例　言われる、思われる、考えられる、信じられる、察せられる、推察される、
報告される、予想される、偲ばれる、見受けられる
＊無意志の助動詞「（ら）れる」ついたときに自発になります。
（他の動詞は自発形が許されません。）
＊引用の「と」を受けます。
例　と見る、とあります、と書いてあります、と記述する、としている、
と名のる、と言った

可能動詞

可能の意味を持つ動詞を含めてここで述べます。
＊後に可能の助動詞が付きません。
＊五段動詞でかつ意志動詞のときは可能形があります。
例　　働く
働け・る　　（可能形）

＊一段動詞のときは、可能の助動詞「られる」が付いた形になります。
この「ら」が省略されていわゆる「ら抜き言葉」になります。この「ら抜き言葉」は可能の意味しか持ちません。現在のところ正式な文章では誤りとされています。テレビで、話者はら抜き言葉でしゃべっていても字幕には「ら」を入れた形で表示しています。
＊動詞自体が可能の意味を持つ動詞があります。活用に可能形がありません。
例　可能だ、分かる、出来る、見える、聞こえる、効く

受身

相手の意志で自分の方に行われる動作です。
受身は受身の助動詞によって表現されます。
挟まれる　　五段動詞

見られる　　一段動詞
察せられる　　和語サ変
変換される　　漢語サ変

受身形は例外を除いて迷惑の意味になります。
例　兄に食べられる。
迷惑の意味がない場合は別の言い方になります。
例　兄が食べる。
例外として受身形が迷惑の意味を持たない動詞があります。元の動詞の持っている意味が原因でしょう。
例　褒められる、信用される、崇められる、讃えられる、助けられる、愛される、得られる、買われる

自発

自然が動作の主体で、無意志の動作です。例えば「閉まる」「閉める」のように無意志動詞・意志動詞対応の動詞の無意志動詞がこの働きをします。
例　閉まる、始まる、建つ、目に入る、裂ける、割れる

助動詞「(ら) れる」がついて自発動詞になる動詞は、主に伝達・思考動詞で数が限られています。受身と同じ形をしています。
例　思い出される、偲ばれる、思われる、言われる、認められる、見受けられる、見て取れる、考えられる、見られる、伝えられる、と見える、と言える

使役

意志動詞について、**指示します。**
意思の助動詞「させる」を使います。
＊五段動詞の未然形がサ行５段の使役動詞として働きますが、使役受身の形を除いて使われません。代わりに使役の助動詞が使われます。
サ行５段および和語サ変にはこの形はありません。
例　書く　→　書かさす　×（使役動詞）
　　→　書かせる　○（使役の助動詞）
　　→　書かされる　○（使役受身）
元々サ行五段の動詞には対応する使役動詞がありません。
そのせいかサ行五段の動詞は全て意志動詞です。

複合動詞

動詞または助動詞の連用形の後ろに別の動詞を付加したものを複合動詞と言います。活用形は後ろの動詞のものになります。
後ろに来る動詞の機能によって、2 つに分けられます。

１．２つの意味を結合させて一つの意味のなるもの。組み合わせは限られていて、組み合わされたものを一つの動詞として考えたほうがよいもの。

例　注ぎ込む　組み立てる　打ち合わせる。

さらにこの後にも動詞がつきます。

例　注ぎ込み続ける

２．これに対してアスペクトを変えるために組み合わせたものがあります。出来上がった複合動詞ののアスペクトは後ろの動詞のものが有効になります。

騒ぎ出す　（瞬間動詞にします。）

騒ぎ続ける（継続動詞にします。）

この場合は動詞だけでなく助動詞の後ろにも組み合わせられます。

働かさせ始める

働かされ始める

形容動詞、名詞について動詞になるものがあります。

臆病付く　　形容動詞について動詞になった例

春めく　　名詞について動詞になった例

前に来る連用形の活用語尾が省略されることがあり、表記の揺れの原因になっています。

打ち合わせる

打ち合せる

打合せる

後ろに来る動詞の先頭の音が清音のときに、前の動詞の連用形の活用語尾が促音化することがあります。

蹴り＋飛ばす　→　蹴っ飛ばす

ぶち＋切る　　→　ぶっきる

複合動詞の前に来る動詞が「取り」の場合は、この「取り」は全く意味を持ちません。

取り扱う　　→　扱う

取り調べる　→　調べる

取り外す　　→　外す

取り逃がす　→　逃がす

例外「取り締まる」は「締まる」ではない。

前に来る動詞が「見る」の場合は単独の時と意味が変わります。

見送る	逃した	直球を見送った
見合わせる	中断する	運転を見合わせています
見初める	惚れた	彼女を見初めた
見届ける	確認した	終焉を見届けた
看取る		死亡を見守る

見過ごす		チェック漏れ
見止める	認める	「認める」という漢字があったため
		＊これは私の意見です。

この例では「見る」という意味は完全にとは言わないまでもほとんどありません。

形容詞

広い意味で形容詞といわれるものは３種類あります。ここでいう和語由来の形容詞と、漢語由来の形容動詞とよばれるものと、同じく漢語由来の「と・たる型形容動詞」と呼ばれるものです。本書ではもう一つ拡張形容動詞という品詞を導入しました。　日本語は形容詞の数が少ない。新しい作られる用語は形容詞の形を取らず形容動詞の形になります。

形容詞は活用があります。語幹の部分と活用語尾に分けられます。ゴシックの部分が語幹で、それに続く部分が活用語尾です。名詞形には連体修飾格が係ります。

例を使って掲揚し類の活用を表にしました。

	形容詞	形容動詞	拡張形容動詞	と・たる	（名詞）
推量形	青かろう	元気だろう	日本一だろう		机だろう
否定形	青くない	元気でない	日本一でない		机でない
連用形	青く 青くて	元気に 元気で	日本一に 日本一で	堂々と	机に 机で
過去形	青かった	元気だった	日本一だった		机だった
終止形	青い	元気だ	日本一だ		机だ
連体形	青い	元気な	日本一の	堂々たる	机の
仮定形	青ければ	元気ならば	日本一ならば		机ならば
丁寧形	青うございます 青いです	元気です	日本一です		机です
意志動詞用法	青くする	元気にする	日本一にする		机にする
無意志動詞用法	青くなる	元気になる	日本一になる		机になる

打ち消し形容詞

打ち消し「ない」には助動詞と、形容詞の２種類があります。間違えられることが多いので、ここで説明しておきます。助動詞の場合は付属語で、形容詞の場合は自立語です。置き換えられる用語も違います。

動か　ない　助動詞　「ず」、「ざる」　に置き換えられます。

動きが　ない　形容詞　「～きません」　に置き換えられます。

助動詞と形容詞とでは音便形の形が違います。

助動詞　動かないで　（付属語：動詞の未然形につきます）

形容詞　机がなくて　（自立語）

打ち消しの形容詞は形容詞ですが程度副詞が係りません。

主観的形容詞

話者の主観に基づく形容詞です。感覚、感情がこれに入ります。

事象を主語にとることもあります。

例　暑い　　眠い

＊彼が　暑い　　×

部屋が　暑い　　自称が主語

2,3 人称の場合は代わりに「がる」がついた形で動詞になります。

＊彼が暑がる　　○

「暑っ」というくずれた言い方があります。

客観的形容詞

話者の主観に基づかない形容詞です。語幹の最後が「し」で終わります。

例　美しい

涼しい

形容詞の丁寧形

普通の語は終止形に「です」を付けると丁寧形になりますが、筆者らの世代では使いません。学校文法では形容詞の音便形に「ございます」を付けた形が正式ということになっています。

早いです　　早うございます

「ございます」の形は、会話のあいさつ語の中だけに残っています。

ありがとうございます。おめでとうございます。

複合形容詞

他の用語と複合して形容詞をつくる接尾辞があります。

動詞の連用形について形容詞を作ります。

～たい　　例　書きたい

～にくい　　例　書きにくい

～やすい　　例　書きやすい

～がたい　　例　言い難い

～づらい　　例　言いづらい

名詞について形容詞を作ります。

～ない　　例　必要ない

～臭い　　例　ガス臭い

～らしい　　例　親らしい

動詞の終止形について形容詞を作ります。

～らしい　　例　結婚するらしい

複合打ち消し形容詞とは、「関係ない」のように助詞を挟まずに「ない」を伴う複合形容詞です。助詞の「が」が省略された形とも言えます。

関係ない　　関係ありません　　関係ございません

関係がない　関係がありません　関係がございません

他に次のような複合打ち消し形容詞があります。

必要ない、問題ない、影響ない

形容詞の持つ側面

形容詞と、名詞と動詞との共起関係を調べるため形容詞を感覚、感情、属性、評価の 4 グループに分けます。（朴 俌俓参考）

感覚形容詞

痛い、冷たい、寒い、涼しい、臭い、眠い、暑い、暑い、厚い、くすぐったい、怖い、甘い（スイートの意味）、辛い、しょっぱい、恐ろしい、

～たい

感情形容詞

嬉しい、楽しい、つらい、悲しい、恥ずかしい、寂しい、喜ばしい、重苦しい、怖い

属性形容詞

美しい、重い、軽い、明るい、暗い、高い、低い、白い、黄色い、赤い、青い、黒い、騒がしい、騒々しい、激しい、固い、柔らかい、長い、短い、多い、少ない、大きい、小さい

～やすい、～にくい、～らしい、～がたい、

評価性形容詞

望ましい、激しい、羨ましい、懐かしい、おぞましい、うしろめたい、

形容動詞

主として漢語由来の形容詞です。活用は断定の助動詞とおなじですが、用法は形容詞と同じです。名詞との違いは、古い言い回しの場合を除いて格助詞を伴いません。

閑静が　×

学校が　○

直後の断定の助動詞に連体形「な」が許されます。

閑静な　○　形容動詞

学校な　×　名詞

但し、名詞にもいわゆる「のだ構文」のときには「な」が付きます。

学校なのだ

古い言い方で格助詞を伴うことがあります。

格助詞を伴う例　閑静をもってよしとする。

拡張形容動詞

「日本一」などという用語は普通の辞書では抽象名詞として扱っていますが、特殊な言い回しの場合を除いて「の」以外の格助詞がつくことはありません。本書では形容動詞の一種の「拡張形容動詞」として扱っています。

連体修飾格を作るとき「な」は付きませんが格助詞の「の」がつきます。

このような拡張形容動詞は複合してできた複合語に多く見受けられます。

例「日本一（の)」「相部屋」「二日続き（の)」「相変わらず（の)」

拡張形容動詞は用言なので連体修飾格を受けません。

母国の┐

日本一の┤

山　「母国の」は拡張形容動詞の「日本一」を飛び越して「山」に係ります。

学校は┐

日本一だ　断定の「だ」を伴って連用修飾格を受けた例

拡張形容動詞ではない例

母国の┐

日本の┐

山　「母国の」は「日本」（名詞）に係ります。

副詞としても働く用語がいくつかある。

日本一大きい　ほんの少し

複合形容動詞

形容動詞は漢語由来なので造語成分として機能することが多いために、出来上がった複合形容詞も多数あります。拡張形容動詞を生成する接尾辞もあります。

国際的、抽象的、近代的

～がちだ

～みたいだ

組織ぐるみ、会社ぐるみ

普通の形容動詞は接尾辞「さ」を伴って名詞になりますが、拡張形容動詞、複合形容動詞はこの変化はありません。

と・たる型形容動詞

現代語として使われる用語も少なく、学校文法でも副詞（「と」の付いた形）、連体詞（「たる」の付いた形）として扱われています。

堂々とした	矍鑠とした	副詞（連用形）
堂々たる	矍鑠たる	連体詞（連体形）

活用のしかたも通常の形容動詞に変わってきています。

堂々たる行進。→　堂々の行進

副言

副詞、連体詞、接続詞、間投詞を体言、用言のどちらにも属さないので副言と呼ぶことにします。格関係に直接関与しません。

副詞

用言を修飾する用語を副詞と言います。名詞に副助詞がついた文節も副詞として働きます。副詞は修飾できる用語に制限があります。構文解析の精度をあげるためにこの制限に注目して様態副詞、程度副詞、数量副詞、呼応の副詞に分類しました。呼応の副詞をさらに 21 種類に分類しました。副詞は複数の表記が許されているものがあります。擬態語・擬音語は片仮名で、それ以外も平仮名で表記されるものも多く見受けられます。ここでは新聞などで使われている標準的な表記を採用しました。

副詞の分類

係り先に制限に注目して副詞を次の４種類に分類します。

様態副詞　　動詞に係って動作の様態を示します。

程度副詞　　形容詞・形容動詞に係ってその程度を示します。

数量副詞　　数量詞に係ります。

呼応の副詞　特定の助動詞の組み合わせ（モダリティー）に係ります。

構文木のところで説明しましたが各副詞についてここでもう一度細かく説明します。

様態副詞

動詞に係り動作の様態を表します。擬態語もここに含まれるので数は一番多くあります。

時間を表す名詞は、様態副詞としても働きます。2284 語

例　今日は良い天気だ　　「今日」は名詞

例　今日学校へ行った　　「今日」は様態副詞

数量を表す名詞は、程度副詞としても働きます。

例　3 個だけ買ってきた　　「3 個」は名詞

例　3 個多い　　「3 個」は程度副詞

擬態語・擬音語

様態副詞として働きます。数はたくさんあります。擬態語・擬音語には形容動詞として働くものもあります。形容動詞として働くときはアクセントが平板形に変わります。

例　べとべとくっつく

　　さらさら流れる

形容動詞として働く例

　　飴がべとべとだ

べとべとになる

程度副詞

形容詞、形容動詞に係り、その程度を示します。

例　とても　大きい

非常に　元気だ

よく使われるようで、新しい程度副詞も見受けられます。

めっちゃ　　地味に

形容詞だけでなく、程度の変化を示す継続動詞にも係ります。

例　かなり痩せた

すごく伸びる

程度副詞ではありませんが　「鬼」という形容詞の程度を示す接頭辞があります。ここでふれておきます。他に「激」「超」「爆」などがあります。

例　鬼つらい

激安

超きれい

爆やせ

程度副詞が次の形容詞を省略させることがあります。

「すごくたくさん食べた。」という文のなかで、「たくさん」という形容動詞を省いて「すごく食べた」としてもほぼ同じ意味になります。

程度副詞は否定に係りません。

だめな例　×とても　ない

ただし次の程度副詞は否定にも係ります。

あまり、きっと、極めて、決して、さして、さほど、すこし、全然、そんなに、たいして、ちっとも、はなはだ、まことに、まだ、

程度副詞ではないのに形容詞に係るものもいくつかあります。

ちょうど良い　まだ早い

程度副詞は連体詞には係りません。「大きな」、「小さな」、「おかしな」の３つの用語は活用がないので連体詞に分類されていることを見受けます。次の例では「大きな」という連体詞に「とても」という程度副詞がかかりますが「いわゆる」という連体詞には係りません。

とても┐　　いわゆる┐

大きな┐　　大きな┤

リンゴです。　　リンゴです。

数量詞は程度副詞としても働き形容詞に係ります。

１年┐　　これは┐
　遅い┐　　遅い┤
　　卒業です。　　話です。

数量副詞

数量詞を修飾する副詞です。数量詞は名詞と考えれば連体詞と考えることもできます。数量詞は副詞としても働くのでここでは数量副詞ということにします。

次の例では数量副詞「およそ」は「５本」という数量詞に係りますが「きっと」は係りません。数量詞は副詞としても働きます。

呼応の副詞

呼応の副詞は文節の末尾にある文節の意図を示す付属語の並びに係り呼応関係になります。

例	根も葉も	～ない	否定
	おそらく	～だろう	推量
	すまないが	～てください	依頼
	ぜひ	～たい	願望

本によっては陳述副詞と書いてあるものもあります。

文節間の係り受け表を参照してください。

複数の分類の働きをする副詞があります。多義語として考えます。

辞書には異なった分類ごとに複数登録しました。

例	さっぱり	味付けする	様態副詞	
	さっぱり	見当たらない	呼応の副詞	否定
	必ず	する、しましょう	呼応の副詞	意志
	必ず	お願いします、てください	呼応の副詞	依頼
	必ず	したものだ	呼応の副詞	習慣
	必ず	見る	様態の副詞	

2 つの受けを持つ副詞もあります。

様態副詞（ぐんぐんー上達）の係り受けが、呼応の副詞（きっとーでしょう）の係り受け

に囲まれた例

様態副詞

例　きっとぐんぐん上達したためでしょう。

呼応の副詞（推量）

副詞（副詞句）の生成

副助詞、複合助詞により副詞が生成できます。生成した副詞も分類できます。

例	～より	程度副詞	弟より多い
	～よりも	程度副詞	
	～ばかり	数量副詞	5 本ばかり多い
	～ばっかり	数量副詞	
	～のみ	程度副詞	体重のみ少ない
	～ほど	数量副詞	5 メートルほど近い
	～くらい	数量副詞	
	～ぐらい	数量副詞	5 年ぐらい遅い
	～だけ	程度副詞	
	～のように	様態副詞	
	～にくらべて	程度副詞	
	～に輪をかけて	程度副詞	
	～にも増して	程度副詞	

呼応の副詞を構成する副助詞の例

～のほか　学校のほか　ない

～しか　本誌か　ない

形式名詞によって副詞句が生成できます。

例　～ため　書いたため

～のまま　調べたまま

～あげく　調べたあげく

～さい　調べたさい

～かいなか　食べるかいなか

接尾辞による生成

例　～よく　都合よく

～正しく　礼儀正しく

～上　　制度上
～中　　変換中
～前　　改正前
～どおり　予定通り

時の名詞は様態副詞として働きます。

例　今朝起きたら
　　明治 37 年日露戦争が始まった。

数量詞は様態副詞としても働きます。

例　少しある
　　５杯食べた

接続助詞による副詞の生成。副詞というより接続詞と考えたほうが良い場合があります。

例　学校だけれど（逆接の接続詞）
　　早朝なのに　（順接の接続詞）

連体詞

単独で連体修飾格になります。

連体詞の例

こんな、どの　（こそあどによる連体修飾格）
ある、来る　（動詞の連体形由来）
～に関する　（拡張助詞による連体修飾格）
～すべき　（複合助動詞による連体修飾格）

ほとんどの場合、直後の体言を修飾します。複数の連体修飾格が連続した場合に前の文節が、直後の文節に係るか、一つ飛び越した先の文節にかかるかを判断するという問題が起こることがあります。

「白い頭の老人が」

「太った白髪の老人が」

前の例では「白い」という連体修飾格は「頭の」という文節か、「老人が」という文節かのどちらに係るかという問題があります。どちらに係るかは意味的に修飾できるかを調べて決めます。この場合でな「白い」という文節は意味的に「頭の」には修飾できますが、「老人が」という文節は修飾できないので「頭の」に係ります。

一方後ろの例では、「太った」という連体修飾格は意味的に「白髪」には係れませんので、「老人」にかかります。

連続した連体修飾格

皆さんもご存じの佐佐木信綱の和歌です。

ゆく秋の大和の国の薬師寺の塔の上なる一ひらの雲

佐佐木信綱

この和歌は七つの連体修飾格が順次直後の文節に係り、最後の２つの連体修飾格が「雲」に係っています。

ゆく┐
秋の┐
大和の┐
国の┐
薬師寺の┐
塔の┐
上なる┐
一ひらの┐
雲

接続詞

前の文の内容を継承して、後ろの文に関係付ける機能を持つ用語を接続詞といいます。

係り受けの受けになることはありません。あえて言えば、直前の文全体を受けています。独立格を構成し、直前には句読点などがきます。

接続詞はいくつかの用語が組み合わされてできているものが多く下の例では「その」の部分を連体詞としてより小さい形態素に分解することもできますが、構文上の働きが異なるのでまとめた形で全体を接続詞と考えます。

例　その上、
　　その一方、その一方で
　　という

接続助詞がそのままの形の接続詞があります。文全体が省略されて、接続助詞だけが残ったものと考えられます。

　　ところが
　　にもかかわらず

構文上の強さは強くなります。

例
　　では
　　すると
　　とはいえ
　　あるいは　　注　「ＡあるいはＢ」というときは複合助詞で構文上の強さも強くありません。

連体詞のように体言を修飾する接続詞もあります。

　　と言われる　　「と言われる（事件が)」
　　と言った　　「と言った（話が)」

文字列的には、文末と同じ形をしているものが多く見受けられます。前文をそのまま繰り返すのを避けて、文末だけを残って前の文全体を省略したとも考えられます。文中にあるときとはアクセントが異なるものが見受けられます。下段が接続詞のときの発音です。

例

文末	依頼すると	イライスルト	学校でしょう	ガッコーデショー
接続詞	すると	スルト	でしょう	デショー

接続詞を大きく次の１８の意味に分類しました。

仮定　仮定の下に結果を考える。
例　　かりに
逆接　前の事がらから予想される結果とは逆の結果になることを示す。
例　　けれども
結論　前の事がらについて結論を述べる。
例　　いずれにしても
原因　原因→結果・理由の関係にあることを表す。
例　　いわば
限定　前の事柄（後の事柄）の話題を限定的にする。
例　　ちなみに
時間　時間の話題をつなげる。
例　　しばらくすると
順序　前の事がらに対して後の事がらを並べ上げる際その順番を示す。
例　　一つ目は
順接　前の事がらが原因・理由となり、あとの事がらが結果・結論となることを示す。
例　　いいかえると
説明　前の事がらについての説明を述べる。
例　　というのは
選択　前の事がらと後の事がらを選択する。
例　　あるいは
対比　前の事がらと後の事がらを比べる。
例　　一方で
注目　前のことがらのことをとりあげ注目する。
例　　とりわけ
展開　話の本筋を切り換えたりまとめたりする。
例　　いっそ
添加　前の事がらに後の事がらを付け加える。
例　　あわせて
転換　前の事がらと話題や状況を変える。
例　　うってかわって
並列　前の事がらに後の事がらを並べる。
例　　あまつさえ
変化　前の文との変化を述べる。
例　　思うに
補足　前の事がらについて補足する。
例　　ご多分に漏れず

間投詞

独立して他の文節と係り受け関係を持たず、それ自体で文を終了させる用語を間投詞と呼びます。

例　あはは
　　あれれ
　　ヤベー

挨拶の用語も間投詞です。

例　おはようございます。

間投助詞、終助詞で終わる文節も間投詞と同様に独立しています。

例　天気だよ。
　　彼は元気だね。

指示詞・疑問詞

これまで説明した主として係り受け関係を決定するための品詞分類法のほかに、その表す機能に注目して分類する分類法があります。

指示詞

重複して書くのを省くために前の文の用語を指して代用するする用語です。「こそあど」とも言います。照応の処理では、これらの用語が前の文のどの用語を指しているかを調べて構文解析をします。分からないと書いた行の語は疑問詞の性質も持っています。

	人	物	場所	方向	方向	形容動詞	連体詞	副詞
自分に近い	こいつ	これ	ここ	こちら	こっち	こんな	この	こう
相手に近い	そいつ	それ	そこ	そちら	そっち	そんな	その	そう
両方から遠い	あいつ	あれ	あそこ	あちら	あっち	あんな	あの	ああ
分からない	どいつ	どれ	どこ	どちら	どっち	どんな	どの	どう

疑問詞

疑問を表す用語で、文法的な働きによって名詞、形容動詞、連体詞、副詞、数量詞があります。

例

どれ、どなた、誰、どいつ、どこ、いつ　名詞

いくつ、何本　名詞（数量詞）

どんな　形容動詞

どの、どんな　連体詞

どう、どのように　副詞

疑問文を作る方法として疑問詞による方法の他に疑問の終助詞かを伴う方法があります。

会話ではイントネーションによって疑問を表します。

擬音語・擬態語

擬音語・擬態語とは、日本人の持つ音声に対する感性をもとに、音や事物の状態や身ぶりなどの感じを仮名文字にして表した用語です。擬音語・擬態語を含んだ文は親しみやすさを感じます。オノマトペとも呼ばれます。擬音語には擬音語以外の和語にはない音声上の特徴があります。普通の和語のもつ特徴をのべ、擬音語での例外をあげます。

擬音語・擬態語では音を表そうとしているためかいわゆる和語の音の表記とはことなった表記をするものがあります。片仮名で書かれることがありますがここではすべて平仮名を用いて説明しました。

ガ行鼻濁音がなく全て口濁音になります。

がらがら、ぎらぎら

長音に長音記号（ー）が使われます。

とうきょう（東京。発音はトーキョー）

きゅーきゅーとして

普通は使わない仮名表記を使って表現している場合もあります。

例　ぐぁぁぁぁ、ごぉぉぉ

ある種の音を表現しようとしてテレビの画面や劇画で母音に濁点をつけた表記を見受けます。

「あ゛」

欧米語起源の片仮名語も音を仮名で表したもので広い意味での擬音語です。和語にはない音があります。

ファイル、ディジタル

擬音語では促音（っ）の後に濁音がきますが、和語は清音しか来ることがありません。

例　ギラッギラ

擬音語以外の和語では促音、長音にアクセント核が来ます。

例　カラット、ドーント

擬音語には濁音、半濁音で始まる用語があります。

例　ギラギラ、パラパラ

例外的に濁音で始まる和語　　映える（ばえる）

擬音語ではラ行音で始まる用語があります。

例　ランラン、ルンルン

擬音語では語頭以外に母音が来ます。

例　ハアハア、ヒエビエ

擬態語にはネガティブ・ポジティブの性質を持った用語が的多くあります。

清音の擬態語はポジティブな性質を持ったものが多いようです

例　キラキラ　スラスラ

濁音の擬態語はネガティブな性質を持ったものが多いようです。

例　ギラギラ　ずらずら

促音の後の濁音

促音（っ）の後の濁音を清音にしてしまう間違いをよく耳にします。

×「きゅーぴっと」　〇キュービッド(cupid)を

×「びっくでーた」　〇ビッグデータ(bigdata)を

×「べっとたうん」　〇ベッドタウン(bed town)を

元々和語には促音の後に濁音が来なかったので清音で発音してしまうためです。

擬音語・擬態語の品詞

異なり語数の上では状況副詞の大部分が擬音語・擬態語なため、擬音語・擬態語は状況副詞と思われますが、それ以外にいくつかの品詞の用語として働きます。

動詞として働くものがあります。

例　すっきりする

すきっとする。

ざら付く

意味が変わることがありますが、形容動詞として働くものがあります。

この用法のときは、平板型のアクセントになります。

例　きらきらな

さらさらな

どんぴしゃ

ちゃらんぽらん

名詞として働くものがあります。複合名詞の一部としても働きます。

例　しゃぶしゃぶを食べる

いらいらが治まる。

ブツブツができた。

ぺんぺん草

擬音語・擬態語は親しみやすいためか、商品名としても使われています。
　例　ガリガリ君
　　ぽたぽた焼き
　　プチプチ

呼応の副詞になる例
　例　おちおち眠れない

程度副詞になる例
　例　ずっしり重い
　　めためた大きい
　　ほんのり明るい

連体詞として働く例。助数詞の直後について、助数詞を形容する使い方もあります。
　　ぴったり 5 本。
　　100 円ぴったりだ。

日本人の音声に対する感性にあう英語単語がいくつか日本語の擬音語・擬態語として入ってきています。
　例　チックタック(ticktack)
　　ジグザグ(zigzag)

擬音語・擬態語と用言との共起関係
　擬音語・擬態語と、動詞、形容詞とは係り受けになるものとならないものがあります。日本語解析に有効であろうと考え、その共起関係に注目して整理しました。擬音語・擬態語にはいくつかの意味と用法があります。また適当な共起語が見つからない擬音語・擬態語もありました。無意志動詞とその対応する他動とでは同じ擬音語・擬態語と組み合わせをつくるので、重複を避けるため意志動詞で説明しました。語形変化を一部認めて異なり語の数は約 1800 語ありました。おそらくまだまだあるだろうと思われます。

擬音語・擬態語の語形変化
　擬音語・擬態語には例外もありますが音韻的な変化に特徴があります。助数詞の音の変化とともに日本人の音の感覚が分かる興味深い点です。
例えば「き（ぎ)」と「ら」で構成する擬態語を考えてみます。
　濁音のほうが、強く、重く感じられます。
　清音の方が良い意味で、濁音の方が悪い意味になります。

促音（っ）撥音（ん）が入ると強調されます。

語形変化

清音	濁音	
きらりと	ぎらりと	
きらっと	ぎらっと	り→促音
きらーっと	ぎらーっと	り→長音＋促音
きらきら	ぎらぎら	反復
きーらきら	ぎーらぎら	反復　長音挿入
きらっきら	ぎらっぎら	反復　促音挿入
きらんきらん	ぎらんぎらん	反復　撥音挿入
きんきら	ぎんぎら	反復　変形
きら付く	ぎら付く	5 段動詞化
きらきらする	ぎらぎらする	サ変動詞
きらきらな	ぎらぎらな	形容動詞

文字列を繰り返すと繰り返しを表します。

例　かちゃかちゃ

　　ざぶんざぶん

ぞんざいないいかたのとき音が変化します。

3 拍目の　し→ち

例　ぎっしり　→　ぎっちり

　　びっしり　→　びっちり

最終拍の　り→し

例　ばっちり　→　ばっちし

　　ぴったり　→　ぴったし

2,4 拍目の　た→ちゃ

例　めためた　→　めちゃめちゃ

　　がたがた　→　がちゃがちゃ

　　ごたごた　→　ごちゃごちゃ

2 泊目の　ち→た

例　ぴちっと　→　ぴたっと

　　ぴちりと　→　ぴたりと

　　ぴちんと　→　ぴたんと

　　ぴっちり　→　ぴったり

3 泊目の　り→っ　または　→ーっ

例　ぱしりと　→　ぱしっと　　ぱしーっと

　　ぴかりと　→　ぴかっと　　ぴかーっと

やはり擬態語･擬音語でも４拍語がの方が安定性が良いようで３泊以内の語で最終拍が「り（っ）」または「ん」のときは最後に必ず「と」を伴って用いられます。

例　ぴたっと

　　ぴたんと

擬態語はテレビ番組他コマーシャルなどにより急に流行するものがあます。毎年「流行語大賞」で新しい言葉が発表されます。また消え去るのも早い。

例

ダメよ～ダメダメ

じぇじぇじぇ

テヘペロ

日本語では動作性の動詞にともなって動作の微妙な違いを示しています。例えば「鳴く」という動詞には「さえずる」「吠える」といった違いを示す動詞があります。しかし次にあげるような擬音語を用いて細かい違いを区別します。

鳴き声の擬音語

かーかー、がーがー、がちゃがちゃ、かっこー、ぎゃーぎゃー、きゃっきゃっ、きゃんきゃん、ぐーぐー、くっくっ、くわっくわっ、くんくん、けろけろ、げろげろ、けんけん、こけこっこー、ころころ、ごろごろ、こっこっ、こんこん、じーじー、すいっちょ、ちゅーちゅー、ちゅんちゅん、ちんちろりん、にゃーにゃー、ぴーぴー、ぴーひょろろ、ひひーん、ぴよぴよ、ぶーぶー、ほーほー、ほーほけきょ、ぽっぽ、ほろほろ、みーんみーん、めーめー、もーもー、りーんりーん、わんわん

一方英語では動詞を変えて区別します。

bark,bleat,bray,cackle,caw,chatter,chirp,click,cluck,coo,croak,crow,cry,grunt,hoot,low,meow,mew,moo,neigh,peep,quack,sing,squak,squeal,tweet,whine,whinny,yelp,

慣用句

日本語の語彙を補強するために複数の用語を組み合わせて新たな意味を持たせたものを慣用句といいます。自然言語処理では組み合わされたものを一つの用語として扱います。

慣用句は慣用句と意識されないで身近に使われています。例えば「役に立つ」「ステージに立つ」というのも慣用句です。それぞれ「有用である」「出演する」という意味で「立つ」と言う意味はなくなってしまっています。自然言語解析をより正確にするために慣用句を収集・整理しています。

採択基準

慣用句と、単なる係り受けと、ことわざとの区別は明確ではありませんがネットなどから次の点に留意して採択しました。

古い慣用句でも現在も使われているは採択しました。常用漢字以外を含んでいるものもあります。

いざ鎌倉

猫に鰹節（ねこにかつおぶし　「鰹」は常用漢字ではない）

ただし古い慣用句で、あまり使われていないものは採択しませんでした。

口ゆえに身を果たす

小舟の宵ごしらえ

他姓を冒す

新しい慣用句は積極的に採択しました。

ハンドルを切る

ロードマップを描く

ハードルが高い

話がピーマンだ

派生した形も採択しました

実際に自然言語解析で使うことを考えて派生した形も別の慣用句として採択しました。このため語数が増えてしまいました。

受身形、使役形などは別の慣用句として採択しました

目を開く	目を開かれる
目を光らす	目を光らせる

短縮した形で使われるものもありますが短縮した形も別の慣用句として採択しました。

謎に包まれている	謎のベールに包まれている	
自分の殻にこもる	殻にこもる	殻に閉じこもる
歯に衣着せぬ	歯に衣を着せない	
当たらずとも遠からず	当たらずといえども遠からず	
抜き足差し足	抜き足差し足忍び足	

表記の揺れには対処していません。新聞などで使われている標準的な表記にしてあります。

三文字熟語、四文字熟語

三文字熟語、四文字熟語も慣用句として扱っています。まとまった形で用いられ、ネガティブ・ポジティブの性質も持っています。ネガティブ・ポジティブについては後で説明します。

三文字熟語の例

能天気	ネガティブ
八百長	ネガティブ
真面目	ポジティブ
有意義	ポジティブ

四文字熟語の例

音信不通	ネガティブ
意気消沈	ネガティブ
膠着状態	ネガティブ
公序良俗	ポジティブ

外国由来の慣用句

欧米語由来の慣用句（ことわざ）があります。

一石二鳥	Kill two birds with one stone.
光陰矢の如し	Time flies like an arrow.
転石苔むさず	A rolling stone gathers no moss.
習慣は第二の天性なり	Custom is a second nature.

英語の慣用句については下記の辞典を参照してください。

成美堂出版慣用句・故事ことわざ辞典

慣用句は組み合わされた形で一つの用語です。

「武将は敵の手に掛かった」という慣用句を含んだ文について考えてみます。慣用句を考えないで構文解析をすると次のようになります。

武将は──┐
敵の┐　　│
　手に──┤
　　掛かった

「武将は－掛かった」という意味の分からない係り受けが出てきます。
これは「手に掛かる」という「殺される」という意味を持つ慣用句を分解してしまったためです。この文は「手に掛かる」を１つの動詞として扱い次のように解析するべきです。

武将は──┐
敵の──×┤
　　手に掛かった

しかしそうすると「敵の」という連体修飾格が「手に掛かる」という用言（動詞）に係れません。
連体修飾格も受けられる新たな品詞の種類を導入する必要があります。
連用修飾格と連体修飾格の両方を受ける慣用句の例

連用修飾格	**連体修飾格**
彼は足をすくわれた	彼の足をすくう。
彼は糸口を探った	問題の糸口を探る

慣用句をひとまとめにしたときに、慣用句の係りと受けの間に副詞が挟まることがあります。

選択の余地が**全く**ない	呼応の副詞が挟まった例
愛想が**とても**いい	程度副詞が挟まった例
知恵が**よく**回る	様態副詞が挟まった例

出来上がった慣用句の品詞

慣用句は動詞だけでなくいくつかの品詞になります。辞書を調べると動詞の形で載っているものが多いのですが、その他の品詞としてしか用いられないものもあります。

出来上がった品詞	**例**
動詞	腹が立つ、足止めを食う
形容詞	腹が黒い、血の気が多い
形容動詞	竹を割ったよう、先人の知恵
名詞	トカゲの尻尾、今昔の感
副詞	手を替え品を替え、勢いに乗って

接続詞	有無を言わせず、知ってか知らでか
連体詞	歯切れのいい、似ても似つかない

テレビのニュースを聞いていると難しい言い方がよく出てきます。特に海外ニュースに多いようです。翻訳者がより適切な文節をいろいろ探した結果でしょう。しかしもう少し平易な言い方にするべきです。外国人は理解できるのでしょうか。

ニュースでの言い方	私の意見
難民の波が押し寄せた	大勢の難民が来た
避難を余儀なくされた	避難した
驚きを隠せなかった	驚いていた
真偽のほどは定かではない	確実ではない
不用意だと言わざるを得なかった	不用意だった
失望を禁じ得なかった	失望した

意志動詞・無意志動詞

慣用句に限ったことではありませんが自動詞他動詞の対応は適当ではありません。代わりに行為者の意志でその行為ができるかできないかを示す意志動詞とそうでない無意志動詞の対応を導入します。意志動詞／無意志動詞と対応する例を上げました。詳しくは別稿の「意志動詞／無意志動詞」参照してください。

意志動詞形	**無意志動詞形**
公にする	公になる
圧力を掛ける	圧力が掛かる
差を付ける	差が付く

単独では「落とす」は意志動詞、「落ちる」は無意志動詞です。しかし、慣用句になると、「財布を落とす」、「命を落とす」は無意志動詞です。この点でも慣用句はまとめて一つの動詞と考えた方が便利です。

用法によって間に挟まれる助詞が変わるものがあります。
一つの用言として登録することができません。例えば「機転が利く」という慣用句は次のように変形します。

例

機転が利く	（叙述用法）
機転を利かせる	（叙述用法、使役形）
機転も利かない	（叙述用法、否定形）
機転が利く友達は	（限定用法）
機転の利く友達は	（限定用法、格助詞の変化）

否定形や、受身形でしか使われない慣用句があります。筆者らの辞書では通常使われる形で採択しました。

非の打ち所がない　　否定形でしか使われませんがポジティブな意味です。
後ろ指を指される　　受身形でしか使われません。
火種を抱えている　　状態形でしか使われません。

係り・受けが複数の文節から成り立っているものがあります。

頭の中が　真っ白だ　　係りが複数の文節からなっている例
渦中に　　身を投ずる　　受けが複数の文節からなっている例
運を天に任せる　　３つの文節の組み合わせでできている例

さらに長い慣用句の例

北は北海道から南は沖縄まで　　日本全国
頭の天辺から足の爪先まで　　全身

結合価

慣用句はまとめた形で一つの用語として扱うべきであると述べましたが、さらに自然言語解析のために慣用句自体に結合価を持たせることができます。結合価とは用語がどんな用語とどんな助詞を介して結合するかを示したものです。

（人の）意に沿う
（人に）盾を突く
（人を）けむに巻く

筆者らの辞書では結合価はまだ付与してありません。

ネガティブ・ポジティブの性質

慣用句は単独の用語に比べてネガティブ・ポジティブの性質を持つものが多く見受けられます。16,254 語の慣用句の内、次の数の慣用句がネガティブ・ポジティブの性質を持っていました。

ポジティブな性質を持つ慣用句は 4,395
ネガティブな性質を持つ慣用句は 6,308

例えば「果物」「検査」「甘い」という用語は単独ではネガティブ・ポジティブの性質はありませんが、慣用句になると、ネガティブ・ポジティブの性質が出てきます。

果物が甘い　　ポジティブな意味
検査が甘い　　ネガティブな意味

さらに

「果物」には「リンゴ」「ミカン」「イチゴ」・・・などの狭義語があります。
「検査」にも「チェック」「考え」「審査」・・・などの関連語があります。

これらの狭義語、講義後もネガティブ・ポジティブの性質を持ちます。自然言語解析プログラムでこれらの関係語までを処理するためには関係語を付けて慣用句辞書に登録するかシソーラスを組み込む必要があります。シソーラスについては別稿「類語辞書とその応用」を参照してください。

統計的に調べてみると

慣用句には特徴のある用語が」よく使われます。係りには体の一部を表す用語が数多く使われます。数えてみました。「気」という用語のように慣用句の中でしか使われない用語があります。

用語	数	例
目	281	目につく
手	272	手を焼く
気	231	気が付く
心	205	心に沁みる
身	152	身を投じる
口	116	口に入れる
胸	112	胸が痛む
頭	99	頭をひねる
足	99	足が遠のく

受けには日本語の基本的な用語が数多く使われます。

用語	数	例
する	680	足を棒にする
なる	259	気が遠くなる
掛ける	145	声を掛ける
取る	141	大事を取る
付く	131	お尻に火が付く
付ける	99	目を付ける
入る	93	視界に入る
掛かる	87	お目にかかる
入れる	81	肩を入れる

慣用句の中でしか用いない用語があります。このような用語を扱うためにも慣用句をまとめた形で管理する方が便利でしょう。

用語	例
抱く（いだく）	疑いを抱く

瞬く（しばたたく）　目を瞬く
新たにする　思いを新たにする
手向ける　花を手向ける
ささげる　祈りをささげる
したためる　手紙をしたためる

慣用句の「受け」の動詞が受身形のときに元の意味が変わるものがあります。

例　「売る」が受けるものです。

魂を売る
悪名を売る
名前を売る
顔を売る
けんかを売る
情けを売る
色気を売る
男を売る
体を売る
名を売る
国を売る
こびを売る
身を売る
夢を売る
油を売る
恩を売る

普段使っている言い回しが実は慣用句であるということがよくあります。

頭が切れる　血が出ないのかね
頭を刈ってきた　貴方は床屋さんですか
家を建てた　貴方は大工さんですか
口を挟んだ　挟まれて痛くないのかね
死人に口なし　死人は鼻から下がすぐに顎

意志動詞・無意志動詞の対応する相手を持つ慣用句があります。

意思動詞	**無意志動詞**
縁を切る	縁が切れる
気をもむ	気がもめる
差を付ける	差が付く
鼻を利かす	鼻が利く

付属語

付属語は自立語の後ろに付いて文節にいろいろな表現を与えます。構文上重要な働きをします。単独で意味を持つだけでなく、いくつかの付属語が組み合わさった結果、新たな意味を持つこともあります。組み合わせた結果は複合助動詞を参照してください。ここでは単独の付属語について述べます。付属語は活用のある「助動詞」と活用のない「助詞」とに分けられます。本書ではさらに形式名詞、補助動詞、補助形容詞も複合助動詞の要素になるので付属語に分類しています。

助詞

自立語の後ろに付いて文節を作ります。活用がありません。同じ文字列の助詞が直前の自立語によって異なった働きになります。

格助詞

体言に付いて、用言に対する体言の役割を決めます。

連用修飾格を構成します。

が	動作主体	
を	動作対称	
	移動性の動詞のとき経由点	例　道を歩いて
に	存在の場所、位置	
	受身の対象	例　子供に泣かれる
へ	動作の方向	
と	並立　引用	
より	起点	例　故郷より届いた
から	起点	例　朝から
で	場所・手段・材料	

連体修飾格を構成します。

の	所有の主体

この他に補助動詞で構成される助詞相当語が多数あります。

連用修飾格を構成します。

～について

～に関して

連体修飾格を構成します。

～についての

～に関する

引用の「と」

ほとんどすべての用語の後に続きます。伝達思考動詞に係ります。

と　　平和と言う

目的の「に」

動詞連用形の直後で移動性動詞に係ってその動詞の目的を示します。

前の用語に与えるアクセントの影響に注意が必要です。

に　　遊びに行く

係助詞

用語にある意味を添えて用言に係り、それらの用言の働きに影響を及ぼします。

は	強調	
も	提示、列挙、添加	
こそ	強調	
さえ	累加・強調	例　声さえ出ない
しか	事柄以外の否定	例　水しか飲まない
すら	累加・強調	例　友達すらいない
だに	累加・強調	
でも	類推	

副助詞

用語にある意味を添えて、副詞として用言を修飾・限定します。

後ろに格助詞が繋がることがあります。連体修飾の格助詞（の）がついて連体修飾格を構成することがあります。形式名詞由来のものと思われます。

例　書いたばかりの本

「程度」と書いてあるものが付いた文節はは程度副詞としても働きます。

ばかり（ばっかり）	分量	程度	
だけ	分量	程度	
のみ	分量		
ほど	段階	程度	
より	比較	程度	例　音より速い
くらい（ぐらい）	強調	程度	
など	総括	婉曲	
なり	例示		

たり	例示	
きり	切れ目	
ところ	否定　対照	
か	不確実	例　誰か来たようだ
やら	不定	
ならでは	取り立て強調	

接続助詞

用言に付いて、単文を接続し、前後の文（または文節）との意味上の関係を示します。

て（で）	動作の切れ目を示します。 非常に多用され、1 文節中に繰り返して使われることもあります。 「見ていて」「見てて」 接続の助動詞も参照してください。	
ても（でも）	上記の「て」を強めた形	
ば	条件	
とも	格助詞「と」を強めた形	
けれど（けれども）	逆接条件	
なら（ならば）	順接条件	
ところが	逆接仮定	
ものの	逆接	
ものを	逆接	
ながら	並立動作	
が	逆接	例　動くが
のに	逆接	
なのに	逆接	
ので	原因理由	
なので	順接	
から	原因理由	例　動くから
からは	順接	例　飲んだからは
からには	強調	例　飲んだからは
し	強調	例　飲んだし
くせに	逆接	例　飲んだくせに
けど	逆接	例　飲んだけど
より		例　飲むより
よりほか		例　飲むよりほか

補助動詞で構成される助詞相当語で接続助詞を構成するものもあります。

かも知れなかったのですが

にもかかわらず

終助詞

種々の用語に付きます。文の終わりにあってその文を完結させ、希望・禁止・詠嘆・感動・強意などの意を添えます。話者が推定できるものがあります。女性だけが使うものがあります。

動作主体が１人称か、２人称かが決まるものがあります。

	意味
か（かい）	疑問、勧誘　（2 人称）
かしら	不審（女性語）（1 人称）
な	禁止（終止形）（2 人称）
ぞ	自分の意志の強調（1 人称）
ぜ	自分の意志の強調（1 人称）
とも	肯定の強調
の	断定を和らげる（女性語）（2 人称）
や	
わ	（女性語）（1 人称）
わよ	（女性語）（1 人称）
わね	（女性語）（1 人称）
もの	（1 人称）
もーん	（1 人称）
な	動きな（指示）　動きなさいの省略形
だこと	強調

間投助詞

文末の文節に付いて、語調を整え、感動・余情・強調などの意を添えます。終助詞は意味を変えますが、間投助詞は意味を変えません。構文上は終助詞と分けてもあまり意味はありません。

な（なあ）

ね（ねえ）

よね

よ

さ

並立助詞

種々の語に付いて、二つ以上の用語を対等の関係で接続するのに用います。多くは、格助詞・係助詞・副助詞・接続助詞などから転用されたものです。後ろの助詞は省略されることがあります。

と	酒と肴と
に	酒に肴に
か	酒かビールか
や	酒やビールや
も	酒もビールも
だの	酒だの肴だの
だろうが	酒だろうが肴だろうが
なり	飲むなり、食べるなり
たり	飲んだり、食べたり
やら	飲むやら食べるやら
の	飲むの騒ぐの

（準体助詞）

現代文法では形式名詞として扱います。

「飲むものが」の形式名詞「もの」の「も」が脱落した形です。

飲むのが

さらに準体助詞の直後が「だ行」の音のときは、「ん」になります。

飲むもんだ

またさらに「も」が脱落します。

飲むんだ

助詞の連続する順序

例外が多いが一般的に助詞は下記の順につながります。

副助詞＋格助詞＋係助詞＋終助詞

例　学校だけにもね

同じ形の助詞で異なる分類に属する助詞があります。

が	から	
学校が	学校から	格助詞
終わったが	終わったから	接続助詞

助詞の省略

よく使われる助詞ほどよく省略されます。

例　省略形	元の形	
何食べた	何を食べた	格助詞「を」
私バカよね	私はバカよね	係助詞「は」
動くため	動くために	文節末の「に」

読み上げる時には省略した助詞の位置に休みの拍が入ります。その結果アクセントも異なります。

書いて送った	書き・送った	助詞のての位置
書くことに疲れた	書くこと／疲れた	形式名詞の後の助詞の「に」の位置
今日は学校へ	今日／学校へ	時の名詞の後の助詞の「は」の位置

文を見ただけでは助詞の省略か副詞かの区別ができないことがあります。

一番列車が

「一番」が副詞のとき	イチバン／レッシャガ
「一番」が名詞で複合名詞になったとき	イチバンレッシャガ

助動詞

活用がある付属語です。

活用の形は動詞形だけでなく、形容詞形もあります。

どの活用形に接続するかで整理しました。

名詞、動詞の終止形、形容動詞に接続するもの

この文節は連体修飾格、連用修飾格の両方を受けます。

これは　お酒だ。　連用修飾格を受けた例

美味しい　お酒だ。　連体修飾格を受けた例

だ	断定
活用形	だろう、だり、だっ、で、だ、(な)、なら

連用形の「で」は、格助詞の「で」（手段、場所）と、過去完了の助動詞と同じで区別がつけにくく識別に苦労します。構文上の性質が異なります。

例

あの建物が学校である。　断定助動詞

運動会が学校である。　場所を示す格助詞

遊んでいたのは学校でで

過去完了　格助詞（場所）　断定助動詞

です	丁寧断定
活用形	でしょう、でし、です

断定の「だ」の連用形「で」に「あります」が続いた形が短縮されたものです。　「学校であります」→「学校です」

未然形に接続するもの

よう・う	意志・推量
活用形	う

直前の接続した動詞が　意志動詞のときは意志を表します。

例　書こう

無意志動詞のときは推量の意味です。

例　晴れよう

五段動詞のときは「お段」の活用形に接続します。

一段動詞のときは「よう」の形になります。

打ち消し

動詞のない	打ち消し
活用形	なかろう、なかった、なく、なかった、ない、なければ

ず、ぬ	打ち消し
活用形	ず、ず、ず、ね、ざれ

じ	打ち消し
活用形	じ　　活用形が一つしかない。

・意志の助動詞・無意志の助動詞

「(さ) せる」を「意志の助動詞」とします。

「(ら) れる」を「無意志の助動詞」とします。

これらの助動詞は原則として意志動詞にだけ付き、無意志動詞には付きません。

		意志の助動詞	無意志の助動詞
広げる	意志動詞	○広げさせる	○広げられる
広がる	無意志動詞	×広がさせる	×広がれる

五段動詞の可能形(無意志形)にも付きません。

書く　　可能形　　×書けさせる　×書けられる

助動詞「(ら) れる」学校文法では受身、可能、尊敬、自発と分けてありますが、これは英語などの外来語での分類法に対応させたもので、**意志の助動詞・無意志の助動詞**という分類法にすればすっきりします。

意志の助動詞が付いた後ろには無意志の助動詞が付きます。これは「使役受け身」と呼ばれています。

書かせられる　　五段動詞

食べさせられる　　一段動詞

しかし下記のように主観的な無意志動詞が意志動詞の助動詞・無意志動詞の助動詞をとる例外もあります。

困る　　困らせる

忘れる　　忘れられない

悩む　　悩ませる

意志化する助動詞

せ・させ	使役
活用形	させ、させよう、させ、させる、させれば、させろ

無意志化する助動詞

れ・られ	受身、尊敬、可能、自発
活用形	られ、られよう、られ、られる、られれば、られろ

連用形に接続するもの

ます	丁寧
活用形	ませ、ましょう、まし、ます、ますれ、ませ

たい	希望
活用形	たかろう、たからず、たく、たかった、たい、ければ

主語は 1 人称だけが許される。2 人称のときは動詞形「たがる」を使う

そうだ	様態
活用形	だろう、だり、だっ、で、だ、(な)、なら

音便形に接続するもの

接続の助動詞（て）

特に「て」はこれだけを接続助詞としても説明されています。この助動詞は、前に起こったことと、後で起こったことの時間的な区切りを示すものです。

例　煮て食べた。　　「煮る」のが先で「食べる」のが後であることを示します。

非常によく使われます。参照することも多い。本書中でも次の説明で参照しています。

アスペクト、時の表現、接続助詞

直前の動詞が中高の時、語幹最後のアクセントの滝の位置を一つ前に移動させます。省略されることも多く省略されて連用形だけが残った形を「連用中止」といいます。連用中止では音便形の音は元の連用形に戻りますが、アクセントの変化は残ります。

書いて　　カイテ

書き、　　カキ　　連用中止

補助動詞を構成するときにも使います。

書いています。

書いてみます。

元来連用形に接続しますが、接続するときは連用形の活用語尾の音を変えます。この変化させた結果が音便形と呼ばれています。また前の動詞が起伏型のときのアクセントも変化させます。

書いて　　カイテ　　（下記の連用形に比べて、音、アクセントが変わります）

書きます　　カキマス　（連用形）

前の動詞との音便によってこの助動詞自体が濁音化します。「用言の活用語尾の表」を参照してください。

書き＋て　　→　　書いて

飲み＋て　　→　　飲んで

た	過去、完了
活用形	たろ、たり、て、た、たら

終止形に接続するもの

そうだ	伝聞
活用形	だろう、だり、だっ、で、だ、(な)、なら

ようだ	比況
活用形	だろう、だり、だっ、で、だ、(な)、なら

みたいだ	比況
活用形	だろう、だり、だっ、で、だ、(な)、なら

らしい	推量
活用形	かろう、からず、く、かった、い、い、けれ

「らしい」には複合形容詞の場合と、助動詞の場合とがあります。話し言葉ではアクセントで区別しています。

女らしい　　オンナラシイ　　「らしい」が接尾辞　　複合形容詞

女らしい　　オンナラシイ　　「らしい」が助動詞

べし	当然
活用形	かり、からず、く、し、き、けれ

まい	打ち消し推量
活用形	まい

注 :「べし」「まい」はサ変動詞に接続したとき、最後の「る」を飛ばして接続することがあります。

例　注目すべき　　（注目するべき）
　　注目すまい　　（注目するまい）

動詞系付属語の順序

付属語の順序に従った構成を考えてみました。

動詞	使役	受身	否定	助動詞	補助動詞	丁寧	過去	比況	断定丁寧	助動詞
動か	させ	られ	ない	で	い	まし	た	よう	でし	た。

これ以上長い構成はいくらでも考えられます。たとえば補助動詞は繰り返すことがあります。

例　動いてきていて

形式名詞

動詞、形容詞などを体言として使うために連体修飾格に付いて文節に、名詞、拡張形容動詞、副詞としての機能を持たせます。

名詞として働く例

読む**こと**は
働く**ひと**は
買った**もの**を　　（買ったのを）
書いた**とき**に
書く**ため**に
食べる**わけ**は
思った**やさき**に

「もの」はよく使われるので短縮されて「の」になったものを準体助詞ということがあります。

単独では副詞として働きませんが、連体修飾格が係った結果、副詞として働く名詞も、形式名詞としています。

例　苦労した**分**良くなった
歩いた**距離**進んだ。
待った**時間**遅れた。
調べた**結果**分かった。
頼んだ**手前**断れなかった。
頼んだ**手前**断れなかった。

拡張形容動詞として働く形式名詞があります。

例　書く**ために～**
書く**ため**だ
書く**ための**
調べた**つもり**です。

ある単語が必ず形式名詞となるわけではありません。通常の語として用いられた場合と、形式名詞として用いられた場合とでアクセントが異なるものがあります。

人は働く	ヒトワ	通常の名詞
働く人は	ヒトワ	形式名詞
位の高い	クライ	通常の名詞
高いくらい	クライ	形式名詞

資料２　形式名詞　を参照してください。

補助動詞

接続助詞「て」に続いたいくつかの動詞で、元の動詞とは意味が異なります。

かっこに包まれた表記はぞんざいな言い方のときの形です。

	直前	意味	補助動詞がついた結果
てあげる	意思	授与	意思
てある	意思	完了	無意思
ていく（てく、てった）	意思	行動	意思
ていける（てける）	意思	可能	無意思
ていただく	意思	依頼	無意思動詞
ていらっしゃる（てらっしゃる）	意思	尊敬	無意思
ている（てて、てる）	意思、無意思	進行中	無意思
ておく（とく）	意思	完了	意思
ておくれ（とくれ）	意思	依頼	無意思
ておる（とる）	意思、無意思	進行中	無意思
てかまわない	意思	許可	無無意志
てくださる	意思	尊敬	無意思
てくる	意思、無意思	終了	無意思
てくれる（てくれ）	意思	依頼	意思
てございます	意思、無意思	尊敬	無意思
てごめん	意思	謝罪	意思
てごらん	意思	勧誘	意思
てさしあげる	意思	提供	意思
てしかたがない	意思	忍耐	無意志
てしまう（ちゃう、ちまう）	無意思	完了	意思
てしょうがない	意思	忍耐	無意志
てたまらない	意思	忍耐	無意志
てならない	意思、無意思	忍耐」	無意志
てたまわる	意思	広域化	意思
てみえる	意思、無意思	尊敬	無無意志
てみせる	意思	展示	意思
てみる	意思	試行	意思
てもらう	意思	依頼	意思
てやがる	意思	非１人称	無意志
てやる	意思	授与	意思
てよこす	意思	非１人称	無意思

補助形容詞

補助動詞と同じような例が形容詞にもあります。

短縮された形をカッコに入れて示しました。

	ぞんざいな言い方	意味
てよい	ていい	許可
てよろしい		許可
てない	てねー	否定
てたい	てー	希望
てほしい		希望
てはだめだ		禁止

複合形容詞

接続		例
動詞の連用形に付く	たい	書きたい
動詞の連用形に付く	にくい	書きにくい
動詞の連用形に付く	やすい	言いにくい
動詞の連用形に付く	がたい	言いがたい
動詞の連用形に付く	づらい	いいづらい
動詞の終止形に付く	らしい	結婚するらしい
名詞に付く	ない	必要ない
名詞に付く	くさい	ガス臭い
名詞に付く	らいい	親らしい

複合助詞

名詞について助詞の機能を拡張する付属語の並びです。

一つの独立した文節と捕らえるよりも前後の助詞と一緒にしてまとめた形で複合助詞と捕らえたほうがよいものがあります。

太郎は──┐

田中さんをお手本に──┤

勉強した。

この例では「をお手本に」という助詞＋文節をまとめた複合助詞として扱っています。

この複合助詞は使われ方によって変化します。例えば「に関し」という複合助詞は次のような変化をします。

に関し　　連用中止め

に関した　　連体、終止

に関して　　連用

に関しまして	連用	丁寧な形
に関しての	連体	
に関する	連体	

数が多いので別のファイルにしました。

複合助動詞

用言について用言の機能を拡張する付属語の並びです。モダリティーと呼ばれている機能を拡張したものです。

複合助動詞は書き手の意図を与えます。また主語の人称が推察できます。

意図	人称	例
願望	１人称	飲みたい
意志	１人称	飲もう
許可要求	１人称	飲んでかまいませんか
依頼	２人称	飲んでください
勧誘	２人称	飲みますか
禁止	２人称	飲んではなりません
確認	２人称	飲んだね
伝聞	３人称	飲むそうだ
疑問		飲めますか
義務		飲むべきです
譲歩		飲んでもかまいません
推量		飲むだろう

「依頼」の意図を持つ複合助動詞だけでも、丁寧さの違いなどでいくつかの言い方があります。

飲んでほしい
飲んでください
飲んでくださいませんか
飲んでくれ
飲んでくれないか
飲んでくれないです
飲んでくれない
飲んでくれませんか
飲んでくれませんですか
飲んでちょうだい

ここにあげたものは主なものだけで、これ以外にもいくつもの書き方があります。
数が多いので別のファイルにしました。

表現

自立語はいくつか結合して文の上でそれぞれの働きをします。この働きを表現と呼ぶことにします。代表的なものとして「主語の推定」「「敬語表現」「否定表現」「疑問表現」「勧誘表現」「時の表現」「ネガポジ」「時の表現」「経過点表現」を説明します。

主語の推定

日本語ではよく主語が省略されます。しかしこのことが和文英訳で主語が決定できないという問題を起こしています。逆に英文和訳のときに、英語の主語をそのまま訳すと不自然な日本語になることすらあります。
I had my lunch. 私は私の弁当を食べた。
主語の推定は文脈によらざるを得ないのかもしれませんが、日本語ではいろいろな手段で主語を推定できます。普通に文章を取り交わしているときに主語がなくてもあまり問題を感じていません。

名詞の意味によって推定できます。
名詞が意味分類してある場合は、人または機関（動作主体）に格助詞の「が」、係り助詞などが付いたものが見つかったときには、それが主語と見なせます。

敬語で主語が推定できます。
敬語には謙譲語と尊敬語とがあります。謙譲語の主語は 1 人称です。尊敬語の主語は 2 人称です。
例えば「申し上げたことと、おっしゃっていることは違います。」という文を考えて見ましょう。
「申し上げる」は謙譲語です。「おっしゃる」は尊敬語です。この文は次のように書き直せます。
「私が申し上げたことと、あなたがおっしゃっていることとは違います。」

名詞によって推定できます。
例えば「主人がご主人に会ったそうです」という文を考えて見ましょう。
「主人」は 1 人称の主人で、美化語にする「ご」がついた「ご主人」は 2 人称の主人を指します。
次のように書き直せます。
「私の主人があなたのご主人に会ったそうです。」
「ご」がついても必ず 2 人称になるというわけではなく、「ご挨拶」のように 2 人称でない

こともあります。
また、「先生が」「社長が」のように職業役職名で 2 人称 3 人称を表すことがあります。

動詞によって推定できます。
「会う」という動詞の謙譲表現は「お会いする」でその主語は 1 人称です。尊敬表現は「お会いになる」でその主語は 2 人称になります。
動詞によって区別できるものもあります。敬語表現であるともいえますが、「いたす」は謙譲語です。「なさる」は尊敬語です。
「来る」という動詞も主語は 2 人称に限ります。但し、「書いてくる」のように「来る」という動詞が補助的に使われたときはこの限りではありません。

動詞によって推定できます。（補足）
「あなたが食べたい」（間違い）
「食べたい」というのは 1 人称の希望を示します。したがって主語は 1 人称でなければなりません。逆に主語が 2 人称か 3 人称のときは「食べたがる」という動詞を使います。

形容詞によって推定できます。
「眠たい」「悲しい」など主観的形容詞と呼ばれている形容詞は主語は 1 人称です。
形容詞の美化語によって推定できます。
「お美しい」「お暑い」のような美化語の主語は 2 人称か 3 人称に関するものを修飾します。しかし数は少ないのですが「つたない」「お見苦しい」のように卑下する言葉は 1 人称に関するものを修飾します。

文節の最後に来る付属語の並び（モダリティー）で主語が推定できます。
「書いて差し上げる」「書け」（命令）の場合書くのは 1 人称でです。
これに反して「書いていただく」「書いてほしい」の場合「書く」の主語は 2 人称です。

サ変動詞などの複合語の動詞では後ろで主語が推定できます。
「勉強いたします」　　主語は 1 人称です。
「勉強なさいます」　　主語は 2 人称です。

美化語は推定できる主語が変わるものがあります。「安心」の主語は 1 人称ですが、その美化語の「ご安心」の主語は 2 人称です。「ご説明」のように誰を相手にしているかで尊敬語であったり謙譲語であったりする動詞もあります。
　先生がご説明する。　主語は 2 人称です。
　先生にご説明する。　主語は 1 人称です。

現在美化語を収集しております。1000 語程度集まりました。

新聞や論文では主語の省略はあまり見られませんが、ビジネス文書ではいちいち主語を陽に書かない方が普通です。これまで述べてきたよな推定ができる場合に省略され、推定できない場合にだけ主語が記述されると言ったら言い過ぎでしょうか。ここに例を上げた主語が推定できる例は 1 例だけですが、実際にはこのような推定ができる例が他にもたくさんあります。現在手作業で収集しています。

敬語表現

日本語の文章では普通、主語を陽に書きません。この敬語表現と前節の複合助動詞によって主語を示しています。敬語表現には、相手を高めるための尊敬表現(主として主語が 2 人称ないしは 3 人称）と、自分を低めるための謙譲表現（主語が 1 人称）とがあります。

例

申し上げたことは、おっしゃっていることとは違います。

（謙譲表現：私が）　　（尊敬表現：あなたが）

この文は主語を付加して「私が言ったことと、あなたが言ったこととは違います。」と同じ意味です。このような表現は事務文書によく使われます。敬語表現は４つに分類できます。

尊敬表現

主語はほとんどの場合、2 人称です。尊敬表現であれば、陽に主語がなくても主語は 2 人称であるといえます。（話の焦点が 3 人称の場合は 3 人称のこともあります。）

謙譲表現

主語は必ず 1 人称です。謙譲表現であれば、陽に主語がなくても主語は 1 人称といえます。

丁寧表現

丁寧な表現は美化語や丁寧の助動詞を使って示します。

美化語とは、丁寧の接頭辞「お」または「ご」を付けた用語です。「お酒」「ご挨拶」などがこれに当たります。 全ての用語が美化語になれるわけではなく、よく使われる用語だけが美化語になります。大和言葉には「お」が、漢語には「ご（御)」が付く傾向があります。3 拍以下の短い用語で必ず美化語の形で用いられる用語もあります。

例　「おかず」「ご飯」

元の用語と美化語とで意味が変わってしまった用語もあります。

例　　お冷（冷）　　おにぎり（握り）　　おしめ（しめ）　　おでき（でき）

女性の書いた文により多く出現します。付け過ぎには注意する必要があります。

例　「おトイレ」「おビール」
もとは美化語だったのが、漢字の「御」がついた固有名詞もあります。
例　「御所」「御神火」
幼児語に「お」が付いた用語が多数あります。
例　「おてて」「お読みする」
「お」「御」のついた固有名詞もあります。
例　「お茶の水」「御所」
別稿「美化語の一覧」をまとめました。そちらを参照してください。

丁寧の助動詞
丁寧な表現のために次の助動詞があります。
ます。
です。
ございます。

敬語専用の動詞があります。また複合助動詞によっても敬語を表します。
尊敬の動詞
召しあがる、おっしゃる、見られる（尊敬の助動詞）、ごらんになる、拝見する
をなさる、～てはいかがですか
謙譲の動詞
いただく、申し上げる、伺う、お目にかかる、おる
をいたす、積りです。

和語動詞は（になる）を伴って尊敬表現、（する）を伴って謙譲表現を構成します。
お読みになる　　尊敬表現
お読みする　　謙譲表現

漢語サ変は、「なさいます」「いたします」などの付属語を伴って尊敬語、謙譲語を構成します。
読書なさいます　　尊敬表現
読書いたします　　謙譲表現

名詞にも敬語があります。その所有者が尊敬語のときは 2 人称、謙譲語のときは 1 人称なります。
尊敬語　御社
ご配慮

おこころざし
謙譲語　弊社
配慮
こころざし

尊敬表現にも謙譲表現にもなる用語があります。
次の例では、作用する対象が 1 人称か 2 人称かによって尊敬語か謙譲語かが変わります。
例　（御社が）　弊社に　ご提供（ご提供は尊敬語）
（弊社が）　御社に　ご提供（ご提供は謙譲語）

否定表現

否定を意味する特定の用語で否定を表します。多様な表現法があります。ネガポジを逆転させます。

形容詞　　（この形の「ない」は「ありません」に置き換えられます。）
（多く）ない

助動詞
（動か）ない
（動か）ず
（動か）ぬ
（動き）ません

動詞
打消しの形でしか使わない慣用句（動詞形）があります。
例　やむをえ／ない、一方なら／ない、後をたた／ない、他ならぬ

形容動詞
ダメです

否定の形をしていても否定でない場合があり、注意が必要です。疑問表現を参照してください。

さらに「ない」を含んでいるが用語自体に否定の意味がなくなってしまった用語があります。
例　もったいない、やるせない、やぶさかでない、よんどころない、かも知れない、
～に違いない、大差ない、少なくない、違いない、間違いない、相違ない、
誤りない、問題ない、はんぱない、（お酒には）目がない

婉曲的な否定表現

さらに肯定表現と同じ形をしていて否定の意味を持っている否定表現があります。
日本語があいまいだといわれる原因の一つです。

どうかと思います。
いかがなものかと思います。
いかがなものでしょうか。
結構です。（否定にも肯定にも使います。）

二重否定

構文上の一つの文節になります。意味は肯定になります。

例　ないこともない、ないわけではない、言うに違いない、
「違い」と「ない」が二重否定になります。→肯定の意味です。

あいまいな表現

人は文脈によって多義語の意味の違いや表現を識別しています。話し言葉ではイントネーションで区別している場合もありますが、書き言葉ではその区別もありません。筆者等のシステムでは文脈まで理解していないのでなかなか正確に解析ができません。日本人はよく無意識に識別しているものだと感心することすらあります。やはり人間同士の会話でも間違えて笑い話のもとになったりすることもあります。

例１　可能形・意志動詞

足がしびれて	立てない	(可能動詞)
棒を	立てない	(意志動詞)

疑問表現

話し言葉では、イントネーションで表現しますが、書き言葉では疑問詞で始めるか、終助詞の「か」で表します。英文からの借用で疑問符（？）で示すこともできますが、まだあまり定着していません。否定疑問表現、勧誘表現も参照してください。

疑問詞疑問表現

疑問詞を含む疑問文で、「はい」「いいえ」の答えが許されません。

	質問	答え
疑問文	雨が降るか？	はい・いいえ
疑問詞疑問文	何を飲むか？	酒・水・ジュース

否定疑問表現

あることを期待しているのにもかかわらず否定疑問表現で質問します。

忘れ物はありませんか　　ないときに「はい」と答えます。
言ったではありませんか　　確認

さらに動詞が絡むと動詞が意志動詞か無意志動詞かで疑問文の意味が異なり、答えも逆になります。

勧誘表現

否定疑問文の形をとっていますが相手の決定を促すための表現です。意志動詞のときにだけ成り立ちます。

例　お酒を飲まないか
「お酒を飲むか」という勧誘と同じ意味になります。
「はい」→　飲む

他に複合助動詞によって同じ勧誘を示すこともできます。

飲もうよ
飲んではどうか

無意志動詞のときは通常の否定疑問文になります。

例　車に酔わないか　（車に酔うは無意志動詞です。）
「はい」→　酔わない

ネガティブ・ポジティブ

文章を解析してネガポジとは推奨している内容か、誹謗している内容かを判定する機能です。最近のアンケートは、ほとんどチェックボックスがあってそこにチェックをするかしないかの二択式になっています。キーボードから文章を打ち込んでもらい、その文を構文解析して何を推奨するかしないかを判別して分類整理すると有意義な情報が得られます。

構文解析を用いて係り受けを整理すると、何が良くて、何が悪いのかが分かります。

例　値段が　高いが　　性能が良い
　　味が　　良いが　　量が少ない

そのためにはまず文中に使われている用語がポジティブな用語かネガティブな用語かに分類します。

ポジティブな用語の例　　安全　成功　直す　　得する　美しい
ネガティブな用語の例　　危険　失敗　壊れる　損する　汚い
温度が低いことを　　涼しい　ポジティブ
　　寒い　　ネガティブ

用語自体がネガポジの性質を常に持つわけではありません。厳密には文脈でネガティブ・ポジティブの性質が変わるものもあり、注意が必要です。たとえば「いい加減」という用語は「お風呂の温度がいい加減だ」とうときはポジティブな意味になりますが、「彼のやることはいい加減だ」というときはネガティブな意味になります。

このような文脈によって両方の意味に使われる用語がいくつかあります。

例　適当だ、やばい、凄い、くせになる、結構、悩ましい、ぞっとしない

慣用句は単独の用語では表せない微妙な意味をもつものが多いためネガティブ、ポジティブの性質をもつものが多数あります。

ポジティブな慣用句の例　　寿命が延びる　期待に応える

ネガティブな慣用句の例　　寿命が縮む　　骨身に応える

ネガティブ・ポジティブの性質が変わってきている慣用句があります。

敵に塩を送る。

情けは人のためならず

否定でネガティブ、ポジティブの性質が逆になります。

否定でネガティブになる例　寿命が延びない　期待に応えない

否定でポジティブになる例　寿命は縮まない　骨身には応えない

日本語の受身形はネガティブな意味のものが多く見受けられます。

ポジティブな例　　要求をつきつける　　冷水を浴びせる

ネガティブになった例　要求をつきつけられる　　冷水を浴びせられる

さらにいうと知識ベースによらないとネガティブ、ポジティブの性質が決められないことがあります。

決められない例　　彼女は体重が 60 キロになった。

彼女の元の体重が分からないとネガティブ、ポジティブの性質が決められません。

このように知識ベースによらないと判定できない場合の数が無視できず、あまり厳密なネガティブ、ポジティブの分類は期待できません。しかし全体の大体の傾向をつかもうとするときには有効な手法です。

時の表現

次の５つの表現があります。動詞のアスペクトによって時の表現が違います。

継続動詞		瞬間動詞	
飲む。	現在・近未来	終わる	現在・近未来
飲んだ	過去	終わった	過去
飲んでいる	現在進行中	終わっている	現在完了
飲んでいた	過去進行中	終わっていた	過去完了
飲もう	意思	終わろう	推量

同形の形式名詞と接続助詞

形式名詞に格助詞などがついたものと表面的に同じ形をしている接続助詞があります。話し言葉ではアクセントが異なります。

動いたものの	ウゴイタモノノ	形式名詞
	ウゴイタモノノ	接続助詞・逆接

どちらと解釈するかで構文構造がちがいます。構文解析でよく問題になるのが、接続助詞の「ところが」「ものの」「ものを」「のに」「くせに」は、直前が用言の連体形につながることもあって形式名詞に格助詞がついたものと構文上の区別がつきません。

経過点表現

出来事が移り変わる点を示す表現です。複合助詞を拡張してその一部に自立語を含みます。

例えば「入力を手始めに解析まで済ませた」という文を普通に解析すると右のような構造になってしまいます。

ここでは「手始め」という自立語を複合助詞の構成要素として取り入れて「を手始めに」を人まとめの複合助詞にします。

入力を手始めに┐	入力を┐
解析まで┤	手始めに┤
済ませた	解析まで┤
複合助詞を拡張した結果	済ませた
	拡張しなかった結果

このように自立語を含む複合助詞は他にもいくつかあります。変化点を表しているものも多く見受けられます。

例

～を手始めに
～を皮切りに
～を手掛かりに
～を突破口に
～を最後に
～をより所に

～をきっかけに

顔文字

会話では、言葉と平行してイントネーションや表情でも情報を伝えています。例えば笑顔で話すとか、悲しそうに話すとか。しかし書き言葉にはそれがありません。それを補うのが顔文字です。我々の構文解析にも顔文字の入った文を解析できるようにしました。ところがみんな顔文字を自由に作っていて、どこまでを辞書に登録したらよいか決めかねています(^_^;)中には見た印象と説明とがうまく結びつかないものもあります。どなたか標準化ていただけませんでしょうかm(　)m

シソーラス

シソーラスとは言葉を意味で整理した辞書です。通常の辞書は、あいうえお順や、アルファベット順に整理してありますが、シソーラスとは意味の関係で整理した辞書です。用語を同義語、狭義語、広義語、関係り受け、反義語、共起語などの意味的な関係をたどって探します。検索をするときや、意味的な領域まで踏み込んで言語解析をするときに必須の辞書です。

用語の数が多くなると必要な関係の用語を探すのも大変です。そこで複数の観点で分類します。

複数の観点で分類して整理

用語数が多いときは、ひとつ分類にたくさんの用語が入っていることになり、引く人に不親切です。そこで複数の観点で分類します。身近な例で「料理」について考えてみます。古今東西の料理の種類は相当な数になります。そこで材料、調理法、地域の３つの観点で分類した例を示します。

（図２参照）

料理｜材料　　魚料理、肉料理、野菜料理

料理｜調理法　生もの、煮物、焼き物

料理｜地域　　和食、中華、洋食

これを図にします。

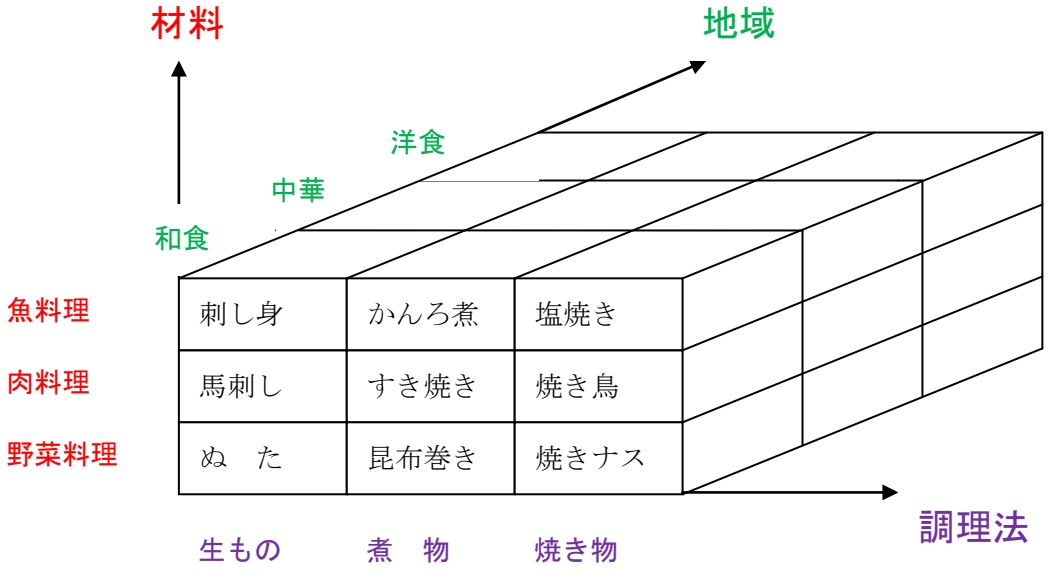


図２．「料理」を「調理法」「材料」「地域」の３つの観点で分類した例

ある一つの用語、例えば「刺し身」はすべての観点による分類の下に入っています。逆に「刺し身」の広義語が「生もの」「魚料理」「和食」の３つあることになります。この他に「料理」のための観点としては「対象」（病人食、独身料理）「スタイル」（会席料理、飲茶）などが考えられます。いろいろな考え方で探す利用者がいるのでなるべく多くの観点で分類しておく必要があります。

意味的な距離ときに

興味深い記事があった、ほかにもっと類似した記事を検索しようとすることがあります。記事と記事との類似度を測ってなるべく似通った記事をさがします。その元になる用語同士の意味的な距離を測る必要があります。

距離をシソーラスの２つの用語間関係をもとに次のように定義しました。

表記の揺れ	0	インターフェースとインタフェース
同義語	1	犬とドッグ
広義語／狭義語	2	犬と秋田犬
反義語	2	強いと弱い
関連語	4	犬と犬小屋
共起語	1	犬をと飼う

実際には、用語同士の関係は連続的でどの関係にするかで距離が違ってきます。

例えば「明日」と「翌日」との関係を、関連語にするか同義語にするかで大幅に変わってしまいます。

３番目の用語との距離は２つの距離を加算しました。

多義語

予期していなかった記事を検索してしまう原因の１つに多義語があります。記事を書いた人と検索した人とで別の意味を考えているのが原因です。

英語は多義語が多いといわれますが、日本語も特に大和言葉には多義語が多くあります。ふだんあまり気づかずに使っていますが、外国語に翻訳するときには別の言葉になるのでしょう。

例えば「うめる」という動詞は次の場合で意味が異なります。

穴をうめる。
お風呂をうめる。
借金をうめる。
時間をうめる。

外来語も英語の影響で多義語があります。さらに日本語ではＬの音をＲの音で発音することによりいくつかの意味が同じ表記になってしまっています。

ライト	（L）	光、照明、明るい、軽い
	（R）	右、右翼手
		権利（コピーライトというとき）

この他にライトには「 書く」という意味がありますが、日本語では使われていません。

差別語

大勢の人に見せるための文章を書くときには、いろいろ意見はあるようですが私は差別語を使わないように気をつけています。シソーラスでも、差別語を出力することがないように考慮してあります。差別語がキーとして指定されたときでも差別語でない通常の言葉だけを出力するようになっています。

意外な言葉が差別語として扱われていて「アル中」という言葉も差別語なのだそうです。ですから私を指していうときにも「アル中」とは言わずに「アルコール依存症」と呼んでください。

反義語

意味が対立する語の関係です。否定文を扱うときなどに必要になります。日本語では婉曲的な言い方をするときに否定表現がよく使われます。例えば「憎からず思う」。

意味的に対立するので意味的な距離が遠く思われますが、関連語よりも近く、同義語とほぼ同じになります。対立の仕方にいくつかあります。

片方を否定すると対立する相手になる語の関係です。例えば「良くないこと」とは「悪いこと」になるような関係です。

善 ←→ 悪

ある中間的な点を中心にして逆の方向になる語の関係です。

上 ←（中）→ 下

一つの行為を対立する立場で捕らえた語の関係です。

売る ←→ 買う

さらに対立軸についても考える必要があります。「兄」に年齢で対立する語として「弟」があります。また性別で対立する語として「姉」があります。どちらも反義語になります。

兄 ←年齢的対立→ 弟
↑
性別的対立
↓
姉

表記の揺れ

同義語のうち発音も同じものを表記の揺れ（異表記語ともいう）と言います。日本が地震国のためとは思いませんが、日本語では標準とされている表記の他に複数の「表記の揺れ」が許されている語があります。個人により、機関によりいろいろな表記が氾濫しています。極端な場合には同じ著者が書いた記事でも表記法が違うことがあります。複数の機関の記事をもれなく検索しようとする場合には考えられる揺れをすべてキーにして検索しなければなりません。

漢字と仮名による表記の揺れ

犬、イヌ、いぬ

漢字表記の揺れ

沈殿、沈澱　　「澱」の字が常用漢字でないので「殿」の字を代用した。

超電導　　ＪＩＳ

超伝導　　学術用語

外来語を仮名書きするときの揺れ

インターフェース　　新聞　１９９６年まではインタフェースでした。

インタフェース　　ＪＩＳ

インターフェイス　　学術用語

インタフェイス

古い記事を扱うときは異体字も問題になります。

　國語、国語

送り仮名の違いによる表記の揺れ

　打ち合わせ、打ち合せ、打合わせ、打合せ、打合

　行う、行なう

（内閣告示の「送り仮名の付け方」の中にも複数の表記が許容されています。）

同義語

シソーラスの中で重要な位置を占める同義語について述べてみます。

　英語で１人称単数は″Ｉ″だけですが、日本語には「私」「僕」「我」「小生」「我が輩」「手前」「愚生」と数十あり、話者と相手との関係で使い分けられています。

外来語

日本語のなかに奈良時代には中国から、最近は主に米国から輸入されて日本語の中に入ってきている語があります。

大和言葉	漢語（複合語）	片仮名語	英　字
打ち合わせ	会議	ミーティング	
しお	食塩	ソルト	ＮａＣｌ
	読み出し専用メモリー	ロム	ＲＯＭ

多少のニュアンスの違いはありますがすべて同義語といえます。このような組み合わせが日本語のなかにたくさんあり、これが同義語を増やしている大きな原因です。大和言葉は親しみやすさを、漢語は権威を、片仮名語は近代的な感じをあたえます。また最近は「計算機」が「コンピューター」から「パソコン」に、「写真機」が「カメラ」になるといったふうに、漢語が片仮名語に置き換わる傾向があります。

省略形

「特別急行」→「特急」のようなものをいいますが、「マスコミ」は「マス・コミューニケーション」であったというように省略形の方が４拍の新しい語として定着してしまっているものがたくさんあります。省略の程度も地域によって異なります。関東よりも関西の方が積極的に省略するようです。

「弱冷房車」（ＪＲ東日本）

「弱冷車」（ＪＲ西日本）

　英語の単語の先頭の文字だけを集めた語（頭字語）もこの省略形に入れるべきでしょう。

　　「Ｒｅａｄ　Ｏｎｌｙ　Ｍｅｍｏｒｙ」　ＲＯＭ

通称

通称と正式名が両方使われています。

「首相」　＝　「内閣総理大臣」

年号

わが国だけの問題ですが年号が 2 種類あります。さらに漢数字とアラビア数字が両方使われます。

「２０２２年」　＝　「令和４年」　＝　「令和四年」

立場による語の違い

立場によって同じことを違った語で現す場合があります。例えば政府は「公的資金」といいますが、「税金」を払う人は「血税」といいます。検索する人は「税金」という語で引きます。

語の陳腐化

語は使い込んで身近なものになると同時に陳腐化して、新しい語ができてきます。古い語は使用方法が制限されるようになり、だんだんと消え去ります。特に人や人の職業を表す語は変化が激しいようです。例えば「お前」という語は元来相手を直接指しては失礼に当たるので、相手の前を指して間接的に相手を指す非常に丁寧な語だったのだそうです。同じように間接的に指す例として「閣下」、「殿下」などがあります。しかし長い間にすっかり陳腐化してしまって、「お前呼ばわりをする」という語があるように今日では上司に対して使うと問題になります。「女中」という語は「お手伝い」「ハウスキーパー」などという語に置き換えられて現在では差別語にまでなってしまいました。

オントロジー

知識ベースなどを構築するために用語同士の意味的な関係だけでなく、概念や用語の論理的な関係を記述した辞書です。インスタンスを調べるときにシソーラスを使います。

文の読み上げ

普段読んでいる日本語が声に出して読むといろいろなところで違いがあるのに気がつきます。　日本語を勉強している外国人や子供に不要な課題をあたえています。

言文一致

発音と仮名表記にはずれがあります。

　助詞の「わ」を「は」と書きます。例　私は

　助詞の「え」を「へ」と書きます。例　学校へ

ウ段オ段の後ろの長音を「う」と書くことになっています。そのため発音上異なる音が同じ文字になってしまっています。

　こうし　　「コーシ」格子　　「コウシ」子牛

同じ問題がエ段、イ段の後にもあります。

　ていたい　　「テータイ」停滞　　「テイタイ」手痛い

また「次のとおり」というときは長音を「お」と書きます。私の意見ですが、長音で発音するものはすべて長音「ー」にしたらどうでしょうか。現に視覚障害者が使っている点字の世界では「東京」を「トーキョー」と書きます。言文一致にしたほうが、日本語を覚えようとしている幼児や外国人のためにも便利でしょう。

ワ行の音

京浜急行に「花月園」という駅がありますが、昔その駅名表示に「くゎげつえん」と書いてあったのを覚えています。昔はそのように読んでいたのでしょう。

「ハイウエー」の場合は、「エ」を大きく書きますが、「ウェブ」の場合は小さく書きます。最近「ウェブ」という言葉が頻出するようになってきたので「ウェ」の音が認められるようになりました。

元々「ワ」行の「ウィ」「ウェ」の音には「ゐヰ」「ゑヱ」という文字が用意されていたのですが、現在廃字になってしまっています。地方によっては現在も「を」を「ウォ」と発音しています。

平仮名	片仮名	発音
わ	ワ	ワ
ゐ	ヰ	ウィ
ゑ	ヱ	ウェ
を	ヲ	ウォ

　また私の意見ですが、これから外来語が増えると思うので「ゐ、ヰ」「ゑ、ヱ」を再び通用させてはどうかと思います。そうすれば「ウェブ」は「ヱブ」と書くことになります。今でもこの文字は会社名では「ニッカウヰスキー」「ヱビス食品」などと使われています。

五十音

よく五十音といいますが、五十音は仮名の種類だけです。

実際の日本語の音は濁音、半濁音、拗音などを入れて、少なく数えても約１９０種類の音になります。次の表はその音を音素的な特徴に注目して整理したものです。

ア	イ	ウ	エ	オ	ヤ		ユ	イェ	ヨ	ワ	ウィ	ウェ	ウォ
カ	キ	ク	ケ	コ	キャ		キュ	キェ	キョ	クヮ	クィ	クェ	クォ
ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ	ギャ		ギュ	ギェ	ギョ	グヮ	グィ	グェ	グォ
サ	スィ	ス	セ	ソ	シャ	シ	シュ	シェ	ショ	スヮ	スィ	スェ	スォ
ザ	ズィ	ズ	ゼ	ゾ	ジャ	ジ	ジュ	ジェ	ジョ	ズヮ	ズィ	ズェ	ズォ
タ	ティ	トゥ	テ	ト	テャ		テュ	テェ	テョ	トヮ			
ダ	ディ	ドゥ	デ	ド	デャ		デュ	デェ	デョ	ドヮ			
ツァ	ツィ	ツ	ツェ	ツォ	チャ	チ	チュ	チェ	チョ	ツヮ			
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ニャ		ニュ	ニェ	ニョ	ヌヮ	ヌィ	ヌェ	ヌォ
ハ	ヒ		ヘ	ホ	ヒャ		ヒュ	ヒェ	ヒョ				
バ	ビ	ブ	ベ	ボ	ビャ		ビュ	ビェ	ビョ	ブヮ	ブィ	ブェ	ブォ
パ	ピ	プ	ペ	ポ	ピャ		ピュ	ピェ	ピョ	プヮ	プィ	プェ	プォ
マ	ミ	ム	メ	モ	ミャ		ミュ	ミェ	ミョ	ムヮ	ムィ	ムェ	ムォ
ラ	リ	ル	レ	ロ	リャ		リュ	リェ	リョ	ルヮ	ルィ	ルェ	ルォ
ファ	フィ	フ	フェ	フォ	フャ		フュ		フョ				

ン　撥音
ッ　促音
ー　長音

一番上の行の音を、母音（アイウエオ）と半母音（「ヤ」から「ウォ」まで）といいます。

ラ行５段活用

最後が「る」で終わる外来語の動詞がラ行５段活用の動詞になります。
例えば「トラブる」(trouble)　　トラブった。
　　「ダブる」(doublr)　　ダブった
2020 年 03 月 03 日のＮＨＫのテレビニュースで「ミングる」(mingle)という動詞が紹介されました。
片仮名語でなかの最後の字「る」だけ平仮名で書いてありました。
パーティーなどで人と交わるという意味だそうです。

同音異義語

　使う漢字に制約が出てきます。共起する用語によって同音異義語でどの漢字かを決めるのに苦労します。

　「つく」

付く　　手に付く
着く　　足が地に着く
就く　　任務に就く
搗く　　餅を搗く
吐く　　嘘を吐く
憑く　　悪霊が憑く

突く　　意表を突く

「つく」という動詞には「付く」と「突く」の 2 つの漢字だけを許して他はすべて平仮名書にしたらどうでしょうか。
「突く」だけはアクセントも違うので別の語として認めます。

ほかにも「はかる」　共同通信社の「記者ハンドブック」によると次の 6 つの漢字が当てれれています。
計る　　時間を計る
量る　　体重を量る
測る　　身長を測る
図る　　解決を図る
謀る　　悪事を謀る
諮る　　審議会に諮る
「量る」「測る」は「計る」に統一して、「図る」「謀る」「諮る」は平仮名書にしたらどうでしょうか。
記者の人はこんなことを全て勉強していたら取材に行っている暇などはないのではないでしょうか。
検索で漏れの原因になっているでしょう。
これまで漢字にいろいろな読み方を許してきましたが、これからは制限する方向で行ったらどうでしょうか。
ワープロがないと文が書けない理由の一つになっています。
日本語を勉強している外国人にとって日本語は難しいということになってしまいます。
（漢字の書けない私のためにも）

「行った」の読み方
仮名漢字変換のときには同音異義語が多いことが障害になりました。
漢字仮名交じり文を読み上げるときにもそれほど数は多くはないのですが障害があります。

良く使う動詞「行った」の読みは「おこなった」か「いった」か

終止形では問題がないのですが音便形が同じ表記になります。
私が社会に出たころは「おこなった」と読ませるときは「行なった」と送り仮名を振っていました。
両方ともよく使う動詞です。昔のように「行なった」と書くようにしようではありませんか。

「あい」は「え」になる。
「飲みてー」といつも考えていると、良く使われるAIの音はEになることに気が付きました。

	AI	E-
日本語	飲みたい	飲みてー
韓国語	ア(ㅏ)とイ(ㅣ)の合成母音はエ(ㅐ)になります。	
英語	MAIL	メール
フランス語	MAISON	メゾン
ドイツ語	SAISON	ゼーゾン

四文字略語

日本人は 4 拍が親しみやすいようで、複合語の頭の２拍ずつを取り出してつないで出来あがる省略語が多数あります。

デパート地下商店街　→　デパチカ
デジタル・カメラ　→　デジカメ
パーソナル・コンピューター　→　パソコン
小椋・潮田　→　オグシオ

出来上がった語が 1 つの言葉だということを示すためかアクセントがすべて平板型になります。

「て」の話

付属語を整理していて「書いて」というときの「て」が、数多く出現するので苦労します。５段動詞には、この「て」との接続のために音便形という特別な形が用意してあります。というより、連用形に接続して使われていたものが非常に多く使われるので音がくずれた結果、音便形ができたと考えるのが妥当でしょう。

「書いて」
「飲んで」
この「て」は活用して
「書いた」のときの「た」］(終止・連体形)

「書いたり」のときの「たり」（連用形）
「書いたらば」のときの「たら」（仮定形）
さらに前に来る動詞によって濁音化するものがあります。
本当に、手がかかります。

固有名詞の読み方

人名、地名、機関名など個々のものを指す固有名詞といわれているものがあります。どこまでが一般名詞で、どこからが固有名詞かという問題もあります。新しい用語がどんどん生産されます。と同時に消えていく用語もあります。そのため辞書にすべての固有名詞を登録するのは不可能です。日本語処理システムでは、どうしても未知語になってしまい精度を上げられない最大の原因になっています。辞書の補修で最後まで手が抜けず手こずる問題です。

・普通名詞と紛らわしい表記の語もあります。

ブルドックソース　（製品にはＢｕｌｌ・Ｄｏｇと書いてあります。）
英雄（ひでお）　（野茂英雄）
勝利（かつとし）
御茶ノ水（地下鉄）、お茶の水（ＪＲ）

・同じ表記にいくつかの読みがあります。なおかつ本来の読み方しか許されません。そのため正確に読ませるためには人手によるチェックが必要になります。

卓　たかし、たく、すぐる
中谷　なかたに　なかや　なかのや
日本電気（にっぽん）　日本芸術院（にほん）
相生町（あいおいちょう、あいおいまち）どの県かで読み方が異なります。

・発音や表記が普通の用語と表記法がずれているものがあります。これはおそらく会社名をきめたころ、仮名小文字がなかったためだろうと思います。

キヤノン、
富士フイルム

・企業名などでは、普通名詞のときと意味と変わります。

例　「電気」は物です「日本電気」は機関でする。
「証券」は物です「新日本証券」は機関の意味になります）

・異体字を含むものがあります。逆に異体字があったら固有名詞だとも言えます。
また「岡」「埼」のように固有名詞でしか使わない漢字があります。
ゐゑヰヱヲヂヅ　も固有名詞でしか使いません。

無声化

異音の１種類で子音だけが発音されて、母音の音が消えてしまう現象です。

むしろこれが進んだ形で子音まで消えてしまって、促音だけになる例のほうが身近に感じられるかもしれません。

例　三角形　サンカクケイ　→　サンカッケイ

更に　時計　という言葉は

トキケイ　→　トッケイ　→　トケイ

促音化　　欠落

緑で書いた部分が無声化します。

次のようなときに 無声化が起こります。

条件１：無声音である。　（カ行、サ行、タ行、ツァ行、ハ行、パ行、ファ行の音）

条件２：イ段、またはウ段である。

条件３：アクセントの滝でない。

条件４：直後が無声音か最後である。

連続して無声化することもあります。

例 福助足袋 フクスケタビ

関西方言にはこのような変化はありません。関西出身の人はアクセントは関東方言でしゃべれてもなかなか無声化の発音ができないようです。

おわりに

日本語に関する仕事を４０年間やってきました。昔は我々の成果を欲しがる人が大勢いたのですが、最近は何でも AI ということで済んでしまうのでしょう。ほとんど見向きもされません。

今でも食卓には紙と鉛筆が置いてあり、テレビを見ていて気がついたことをパソコンに登録しています。今後もホームページは更新していくつもりです。時々はご覧になってください。

辞書

四十年ものあいだコンピューター用の辞書作成にかかわってきました。長い間の習慣で新語を拾うためにテレビの前には紙と筆記用具が用意してあります。気になった用語を書き留めてあとでコンピューターに入力しています。また mecab の辞書をベースにして構文解析を作っていますがそこでも利用しています。　筆者等の構文解析では Mecab の辞書と同じ文字のときは、筆者が追加した項目を優先しています。

見出しに同じ仮名の文字が続いたときの順序

市販の辞書と同じにしてあります。

仮名文字、その後ろに濁音、そのまた後ろに半濁音の順になっています。

長音も直前の音の母音と同じ文字として扱っています。

逆引き辞書も用意してあります。

ネガポジの分類がしてあります。

大雑把に品詞ごとにファイル分けしていますが、他の名前のファイルに入っているものがあります。辞書名の後にある半角の数字は項目数です。

２０２２年３月１０日現在

新語辞書　1551

テレビなどで見つけた新語を追加したものです。

主に mecab の辞書を作ったころにはまだ発展していなかったゲノム関係の項目を追加しました。

慣用句辞書　17185

逆引き辞書が効果を発揮します。

三文字熟語辞書　470

漢文由来の古い熟語を捨てて、原則として現代語だけを集めました。

四文字熟語辞書　520

漢文由来の古い熟語を捨てて、原則として現代語だけを集めました。

時の名詞　2285

副詞としても働くので名詞と別のファイルにしました。

共起辞書 90920

意味によって係先が変わる組みお合わせを用意しました。共起した結果ネガポジが変わるものを集めました。

振り仮名が振ってありません。

動詞辞書　24730

意志動詞・無意志動詞の分類がしてあります。

副詞辞書　2668

副詞の種類に注目して、様態副詞、程度副詞、数量副詞、呼応の副詞に分類してあります。

擬態語・擬音語辞書

様態副詞として働くもの 5442

形容動詞として働くもの　742

形容詞　347

形容詞で終わる慣用句が主なメンバーです。

形容動詞　213

実際は他のファイルに入っているものが数多くあります。

接続詞辞書　380

次の分類がしてあります。

仮定、逆接、結論、原因、限定、時間、順序、順接、説明、選択、対比、展開、添加、並列、変化、補足

間投詞辞書　205

複合助動詞　428

動詞に付いてその機能を拡張するものです。

オントロジーと呼ばれています。

複合助詞　375

名詞に付いてその機能を拡張するものです。

シソーラス

すぐに提供できません。いま手元にはありません。

参考文献

金谷武洋　日本語に主語はいらない　百年の誤謬を正す（講談社選書メチエ）
金谷武洋　『日本語は敬語があって主語がない地上の視点」の日本文化論』（光文社新書）
中島文雄　「日本語の構造　英語との対比」岩波新書
朴 俌徑　形容詞による属性叙述表現の構造に基づく意味分析
第５回コーパス日本語学ワークショップ予稿集(2014 年３月　国立国語研究所)
内山潤　日本語テキストにおける事象間の時間関係について
金城学院大学論集　人文科学編　第９ 巻第２ 号 2013 年３ 月
グループＫＡＮＡＭＥ　複合助詞がこれでわかる　ひつじ書房
NHK 日本語発音アクセント新辞典　第２版　日本放送協会
朝倉日本語講座　５　文法Ⅰ　朝倉書店
朝倉日本語講座　６　文法Ⅱ　朝倉書店
朝倉日本語講座　８　敬語　朝倉書店

下記の記事がホームページにありますのでご参照ください。
国分芳宏　パソコンがしゃべる
国分芳宏他　複数の観点で分類した自然言語処理用シソーラス　自然言語処理　Vol.17 No.1 pp.247
国分芳宏他　シソーラスを組み込んだ意味解析システム　自然言語処理　Vol.17　No.4 pp.43
国分芳宏　翻訳のための主語の推定
国分芳宏　美化語一覧

ホームページ　http://www.asahi-net.or.jp/~wd2y-kkb/